CONTAX N1



取扱説明書

この取扱説明書は、Recycled Paperを使用しています。

このたびは、コンタックスN1をお買い上げいただきありがとうございます。このカメラは『作品を作るカメラ』であるコンタックスの基本思想を継承しながら、オートフォーカス（AF）／マニュアルフォーカス（MF）を被写体に応じて使い分け、作画意図に的確に対応できるオートフォーカス一眼レフシステムカメラです。

さらに次のような特徴もございますので、ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取り扱いで末永くご愛用ください。

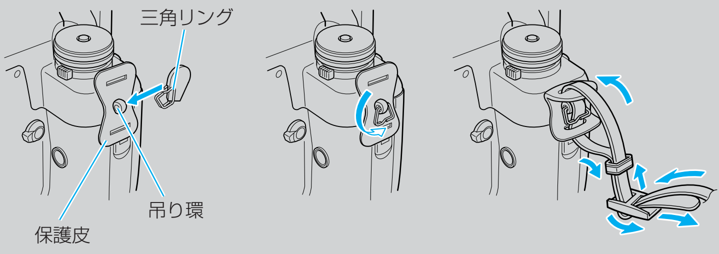
① 対角５点測距によるオート選択モード、マニュアル選択モード搭載
② カールツァイスＴ＊レンズ性能をフルに引き出す高速シャッター搭載
③ ピントの合う位置を自動的にずらして撮るフォーカス-A·B·C機能
④ 撮影領域を拡げる多彩なアクセサリー群

ストラップの取り付けかた

① 吊り環に保護皮を取り付けます。

② 三角リングを吊り環に取り付けます。

③ ストラップを保護皮と三角リングに通して図のように取り付けます。



安全に関する表示について

この取扱説明書では、このカメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

⚠注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。

⚠警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

取り扱い上のご注意

〈カメラ使用上のご注意〉

● レンズやファインダー接眼部などにゴミ·ホコリがある場合は、ブロワーで吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽く払い、指紋などが付いた場合はむやみに拭かず、市販のレンズ紙などで軽く拭いてください。またミラー面のゴミやホコリは、レンズ刷毛で軽く払う程度にしてください。

● 本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので、絶対に使用しないでください。

⚠注意	● 海岸やほこりの多い所での撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙·発火を起こすこともあります。また砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。 ● 寒い所から急に暖かい室内に持ち込むと、レンズがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、繰り返し行うとレンズやボディ内部に水滴が生じます。水滴は電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙·発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。 ● カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙·発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください。 ● **海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてから使用してください。また、予備の電池を携行してください。**

⚠**警告**	● カメラや電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、速やかに電池を取り出してください。火災や火傷の原因となります。（電池を取り出す際、火傷には十分ご注意ください。） ● カメラを分解、改造しないでください。高電圧がかかり感電する恐れがあります。 ● ストロボ撮影時、ストロボを人の目（とくに乳幼児）に近づけて撮影しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。 ● カメラで、太陽や強い光源を直接見ないでください。視力障害を起こす危険性があります。 ● 移動しながらの撮影はおやめください。特にファインダーを覗きながら移動すると事故の原因になります。 ● 撮影時は被写体に気をとられすぎずに、周囲の状況にも十分注意をはらってください。

〈シャッター幕について〉

シャッター幕は非常に薄い材質でできています。絶対に指で突いたり触れたり拭いたりしないでください。フィルム交換の際はフィルム先端がシャッター幕に触れないようご注意ください。またブロワーで吹く際は強く吹かないでください。強く吹くと変形や破損の恐れがあります。ボンベタイプのブロワーは絶対に使わないでください。

〈マイクロコンピューターの保護回路について〉

このカメラは外部の強力な静電気に対して、内部のマイクロコンピューターを保護するための安全回路を内蔵しています。この安全回路の働きにより、極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合は、メインスイッチをOFFにし、一旦電池を取り出して、もう一度入れ直してからご使用ください。

〈赤外線フィルム撮影について〉

このカメラの特性上、赤外線フィルムは使用できませんのでご注意ください。

〈カメラの保管について〉

- 暑い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間置いておくと、フィルムや電池の性能を低下させ、カメラにも悪影響を及ぼしますので放置しないでください。
- カメラを長期間使わないときは電池を取り出しておいてください。電池の液漏れなどによる事故を防ぎます。

⚠注意	● カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱う所を避け、風通しのよい所に保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙･発火を起こすこともあります。

〈電池取り扱い上のご注意〉

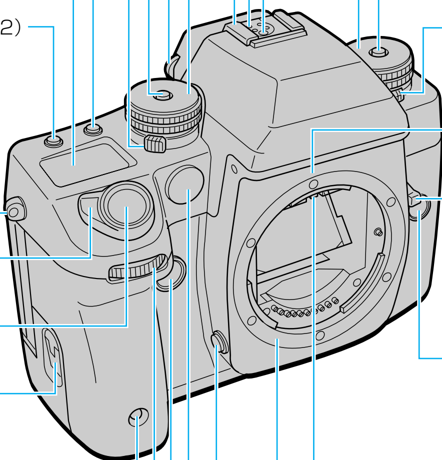
- 電池は一般に、低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地での使用の前後はカメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温してください。なお低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 電池の＋－極が汗や油などで汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾布でよく拭いてから使用してください。
- 長期の旅行などには、予備の新しい電池を用意してください。
- 電池の＋－を間違えて入れるとカメラは作動しません。

⚠注意	● 金属製のピンセットのような導電性のあるもので電極に触れないでください。電池の消耗を早めるだけでなく、ショートして危険です。

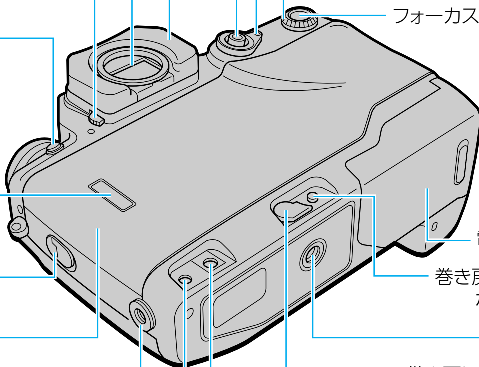
⚠警告	● 次のようなことは絶対にしないでください。電池が破裂し火災、けがや周囲を汚損する原因となります。 ① このカメラで指定されている電池以外は、使用しないでください。 ② 電池を火の中に入れたり、充電ショート、分解、加熱は絶対にしないでください。 ③ 新しい電池と使用した電池、違うメーカーや他の種類の電池を混ぜて使わないでください。 ④ 2CR5（6Vリチウム電池）は充電禁止です。絶対に充電しないでください。 ● 電池を廃棄する場合は、接点にテープを貼るなど絶縁してください。廃棄後他の金属と接触すると、破裂、発火の原因となります。 ● 電池は幼児の手の届かない所に置いてください。万一電池を飲み込んだ場合、電池が壊れて電池の液で胃、腸などが損傷する恐れがありますので、直ちに医師と相談してください。

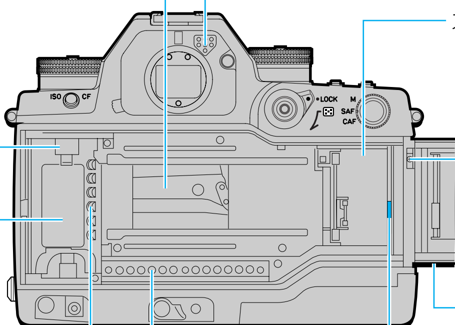
目　　次

各部の名称



露出補正ダイヤル（P50）
視度調整ダイヤル（P17）
露出補正ダイヤルロック
解除ボタン（P50）
露出のA･B･C レバー（P52）
ドライブボタン（P25）
表示パネル（P10）
ライトボタン（P12）
吊り環（P2）
メイン
スイッチ（P18）
シャッター
ボタン（P19）
電池室
着脱ノブ（P14）
セルフタイマーLED（P59）
コマンドダイヤル（P24, 25, 74）
露出チェックボタン（P12）
アクセサリーシュー（P63）
専用ストロボ接点（P63）
ダイレクトX接点（P72）
シャッターダイヤル（P46）
シャッターダイヤル
ロック解除ボタン（74）
露出モードレバー
（P24, 45, 78）
レンズ
指標（P16）
測光レバー
（P41）
レンズ取り外し
ボタン（P16）
スクリーン交換つめ（P94）
マウント（P16）
絞り込みボタン（P60）
AF補助光（P31）


アイカップ（P17）
ファインダー接眼部（P11）
アイピース
シャッター（P59）
露出モードロック
解除ボタン
（P24, 45, 78）
フィルム確認窓
裏ぶた
開放ノブ（P20）
裏ぶた（P61）
シンクロターミナル（P72）
ケーブルスイッチソケット（P91）
マニュアル選択レバー（P30）
オート選択レバー（P29）
フォーカスダイヤル（P31）
フォーカスボタン（P37）
電池室（P14）
巻き戻しロック解除
ボタン（P23）
三脚ねじ穴
巻き戻しレバー（P23）
外部電源ソケット（P89）


シャッター幕（P20）
液晶ビューファー用接点（P85）
スプール（P21）
フィルム
固定軸（P20）
フィルム室（P20）
裏ぶた着脱
ピン（P61）
裏ぶた（P61）
DX接点（P20）
データバック用接点（P86）
フィルム先端
マーク（P21）
ISO
CF
LOCK
M
SAF
CAF

表示パネルおよびファインダー内表示

〈表示パネル〉

フィルムカウンター（P21）

セルフタイマー時間（P59）

露出のA･B･C、フォーカス-A･B･C
撮影順序（P38, 52）

多重露出設定枚数（P57）

多重露出残り枚数（P57）

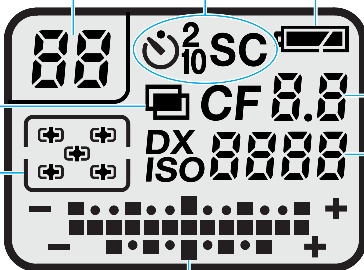
バルブ時間（P49）

フィルム装着状況
･フィルム無し（P21）
･空送り失敗（P21）
･空送り正常（P21）
･巻き上げ（加算表示）
･撮影フィルム終了（P23）
･巻き戻し（減算表示）
･巻き戻し完了（P23）

ドライブモード（P25）
･セルフタイマーモード（P59）
（10秒、2秒）
･1コマ撮影モード（P25）
･連続撮影モード（P25）

電池容量（P15）

多重露出
モード（P57）



絞り値（P12, 44）

フォーカス
フレーム選択表示
･オート選択
モード（P29）
･マニュアル選択
モード（P30）

シャッタースピード（P45）

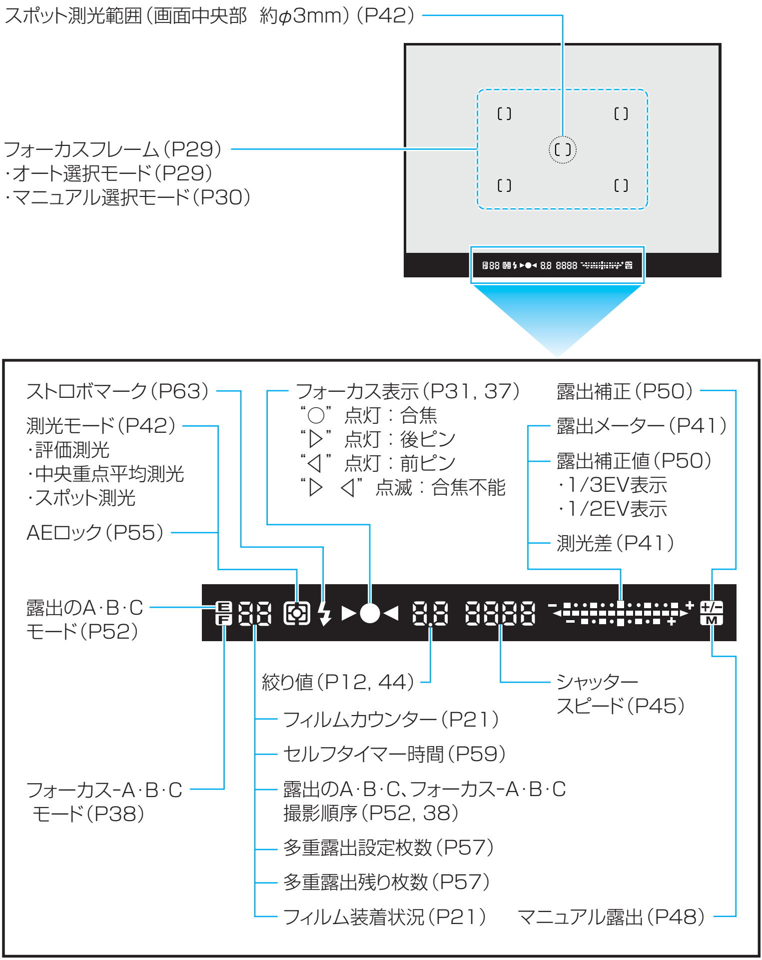
フィルム感度（P24）
･DX：自動設定時（P22）
･ISO：手動設定時（P24）

カスタム
ファンクション（P76）

露出補正値（P74）
･1/3EV表示
･1/2EV表示

（表示内容は次の通りです。この図は説明のために全情報を表示したもので実際の表示とは異なります。）

〈ファインダー内表示〉

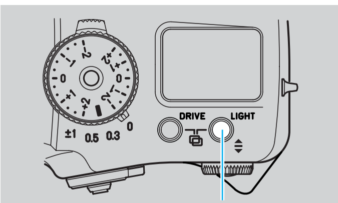


ファインダー内表示は、ピント合わせ状況、絞り、シャッタースピード、などの表示の他に、露出メーターやフィルムカウンターなどが表示される、情報集中ファインダーです。
ファインダー内表示は、次の操作をしたときに表示され、16秒間表示したあと自動的に消える省電設計になっています。

① メインスイッチをONしたとき。
② メインスイッチONの状態で、露出チェックボタンを押したときおよび、シャッターボタン半押しで表示されます。
また表示中にダイヤル等を切り替えたときは、表示はさらに16秒間延長されます。

● 表示時間（パワーホールド時間）を変更することができます。（P76）
● 次の場合はファインダー内表示が消灯します。
“撮影中”、“撮影フィルム終了”、“巻き戻し中”、“巻き戻し完了”、“まとめ写し込み中”、“空送り失敗”、“電池容量無し”、
“露出モードレバーをISOまたはCFに設定しているとき”

〈表示パネルの照明〉



“LIGHT”ボタン

表示パネルには照明機能が付いています。“LIGHT”ボタンを押すたびに照明はついたり消えたりします。暗い場所での撮影などで表示パネルが見えにくいときなどにご利用ください。

● 表示パネルが照明されている間に他のダイヤルやボタンを操作すると照明時間は延長されます。撮影開始と同時に表示パネルの照明は消えます。

〈ズーミングによる絞り値表示の変化について〉

このカメラは、ズーミングによってレンズの絞り値（明るさ）が変化するレンズ（*）をご使用の場合、表示パネルおよびファインダー内の絞り値表示は、絞りリングの設定値ではなくズーミングによる実絞り値を表示します。**単体露出計や汎用の外部ストロボ使用時、レンズの絞り値をセットする必要があるときは、カメラの表示パネルおよびファインダー内に表示されている実絞り値をお使いください。**

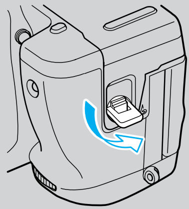
* バリオゾナーT * 24-85mm F3.5～4.5（Nマウント）。バリオゾナーT* 70-300mm F4.0～5.6（Nマウント）など。

撮影前の基本操作

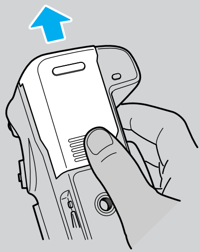
ここでは、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、このカメラの操作の基本について説明します。初めての方はここから順番にお読みください。
カメラの取り扱いの基礎知識をお持ちで、すぐに撮影を始めたい方は、P26の『簡単な撮影方法』をご覧ください。

1. 電池の入れかたと容量確認

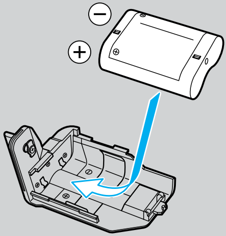
①



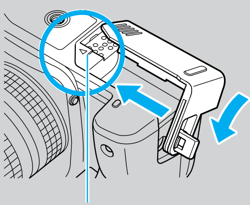
②



③



④



〈電池の入れかた〉

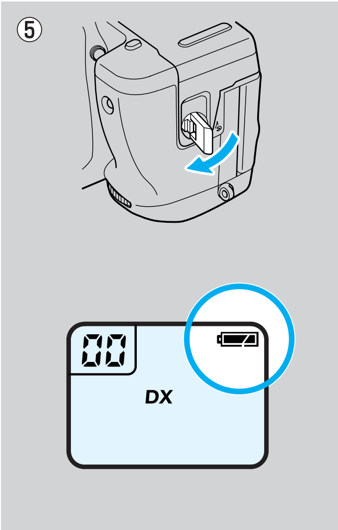
メインスイッチをOFFにしてから行ってください。

1 電池室着脱ノブを起こし矢印方向に止まるまで回します。

2 中央部を押しながら矢印方向にスライドさせ、電池室を取り外します。

3 6Vリチウム電池(2CR5)を正しく電池室にはめ込みます。

4 電池室の端面をボディ側の端面マークに合わせてのせ、矢印方向にスライドさせて押し込みます。

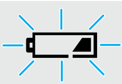
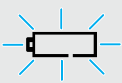


5 電池室着脱ノブを時計回りに回して固定します。

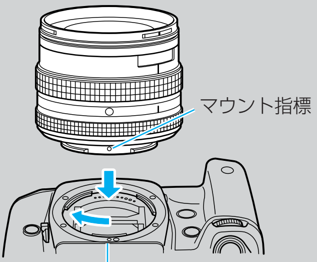
- 着脱ノブは倒して元の位置に収納してください。
- 表示パネルに“ ”電池マークが表示されます。
- 新しい電池でも、連続撮影中および低温での撮影において一時的に電圧が低下し、“ ”が点灯することがあります。このようなときには、メインスイッチの“OFF←→ON”を2～3回くり返してください。この操作で“ ”が点灯すれば電池容量は十分あります。

〈電池の容量確認〉

“ ”電池マークの意味は次の通りです。メインスイッチをONにして確認してください。

メインスイッチ ON時の表示	表示の意味
	電池の容量は十分です。
	新しい電池を用意してください。
（点滅）	新しい電池と交換してください。
（点滅）	カメラは作動しません。

2. レンズの取り付けかたと取り外しかた

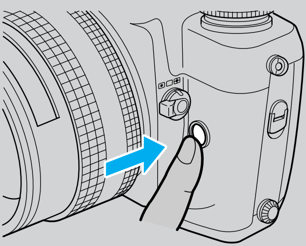


〈取り付けかた〉

1 カメラのボディキャップとレンズの後キャップを外します。

2 レンズのマウント指標をカメラのレンズ指標に合わせてはめ込み、時計方向に“カチッ”と音がして止まるまで回して取り付けます。

- レンズはコンタックスNマウントレンズをご使用ください。
- マウントアダプターNAM-1を併用すると、コンタックス645システムのレンズが使用できます。（P92）



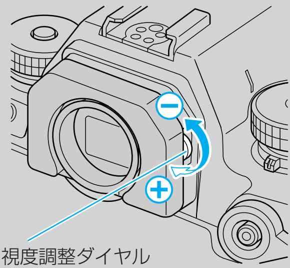
〈取り外しかた〉

レンズ取り外しボタンを押しながらレンズを反時計方向に止まるまで回し、前方に引き出して外します。

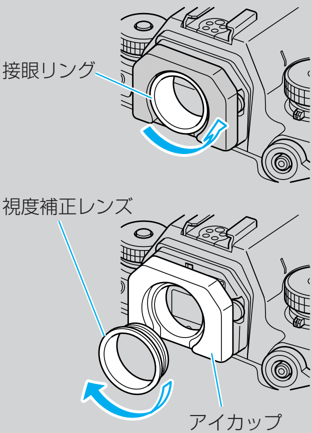
- レンズ着脱の際、レンズ面やボディ内部に触れないでください。
- フィルムが入っている状態でレンズを着脱するときは、直射日光を避けてください。

3. 視度調整のしかた

〈視度調整〉



〈視度補正レンズの取り付け〉



このカメラには視度調整機構が内蔵されています。視度調整ダイヤルを回して、ファインダー内フォーカスフレームがはっきり見えるように調整してください。

調整範囲は−3.0D〜+1.0 D（ディオプター）です。

- カメラの視度調整機構の範囲内で視度調整ができない場合は、別売りの視度補正レンズFMタイプをご利用ください。

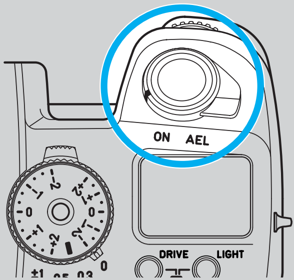
視度調整範囲は次のようになります。

視度補正レンズ	調整範囲
無し	−3.0D 〜 +1.0D
FM−3	−6.0D 〜 −2.0D
FM+2	−1.0D 〜 +3.0D

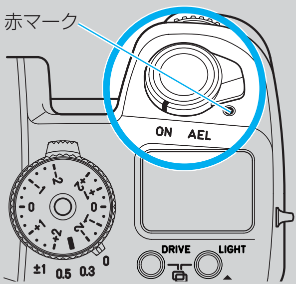
〈視度補正レンズの取り付けかた〉

カメラの接眼リングを外して視度補正レンズをねじ込みます。

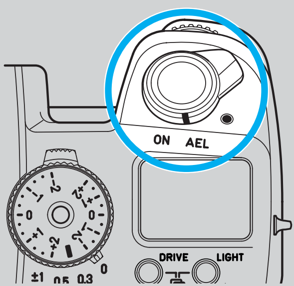
4. メインスイッチについて



〈OFF状態〉



〈ON状態〉



〈AEL（AEロック状態）〉

メインスイッチは電源のOFF、ONおよびAEL（AEロック）の切り替えを行います。

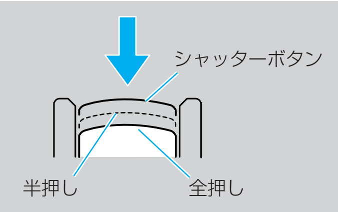
● 誤作動を防ぐため、メインスイッチはクリックの位置に止めてご使用ください。

OFF：赤マークが見えないとき
カメラの電源が切れ、OFFの状態になっています。

ON：
カメラの電源が入ります。

AEL：
逆光での撮影や、動く被写体を一定の露出で連続撮影するなど、露出を固定（AEロック）したいときに使います。（詳しくはP55参照）

5. シャッターボタンについて

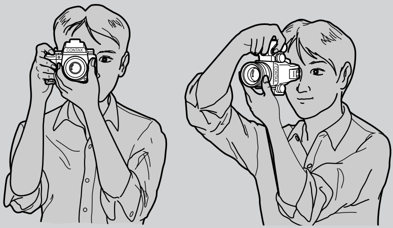


シャッターボタンの操作は２段階になっています。
シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内表示が点灯し、オートフォーカスや測光機能が作動します。さらにシャッターボタンを押し込む（全押し）とシャッターが切れ撮影が行われます。

- フィルムを入れる前に、実際にシャッターボタンを押して、半押しの感覚をつかんでください。
- シャッターボタンはカメラぶれ防止のためにも、指の腹で静かに押してください。

6. カメラの構えかた

①脇をしめてカメラを安定させる。
②写す瞬間、呼吸を止める。
③手にあまり力を入れず、静かにシャッターボタンを押す。

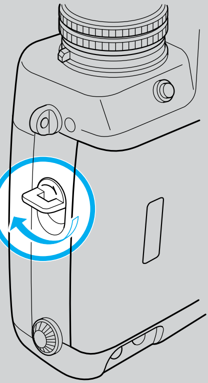


ピントが合った美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えることが大切です。ピントが悪い写真の多くはカメラぶれが原因です。
カメラは横位置の他、状況により縦位置で構えますが、いずれも自分にあった姿勢を研究してください。建物や木立などを利用して身体やカメラを支えることも効果的な方法です。

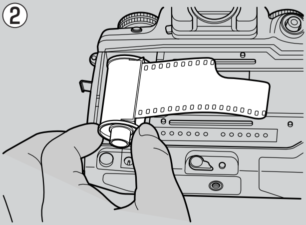
- 暗い所の撮影などでシャッタースピードが遅くなるときは、カメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。

7. フィルムの入れかた

①



②



1 **裏ぶた開放ノブを起こし、矢印方向に回して裏ぶたを開けます。**

開けた後、裏ぶた開放ノブは、元の位置に収納しておいてください。

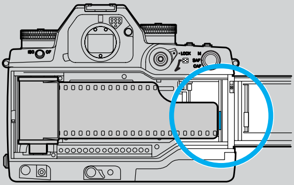
- フィルムを入れるときは、カメラの内側に入っている『保護シート』を必ず取りはずしてください。
- DX接点やデータバック用接点は、むやみに触れたり、汚したりしないように注意してください。
- フィルムの出し入れは、直射日光を避けてください。

2 **図のように、フィルムを斜めにして入れます。**

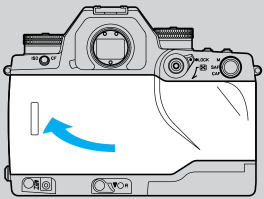
シャッター幕について

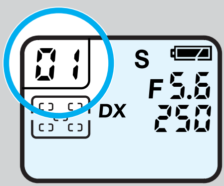
シャッター幕は精密部品ですので絶対に指で触れたりフィルムの先端でついたりしないでください。特にフィルムの先端がシャッター幕の上にある状態では、絶対にシャッターを切らないでください。

③



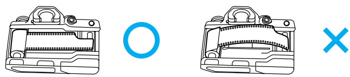
④





3 フィルムの先端をオレンジ色の“I”マークの位置まで引き出し、そのままスプールの上にのせます。

このとき図のようにフィルムが浮き上がらないようにしてください。

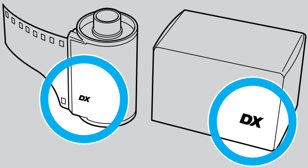


● フィルムの先が長く出ている場合はそのまま入れず、パトローネに巻き戻して長さを調節してください。

4 裏ぶたを確実に閉め、メインスイッチをONにしてシャッターボタンを押します。

フィルムが自動的に1コマ目まで空送りされ、フィルムカウンターは“01”になります。

● フィルムカウンターが“00”のままで点滅している場合は、フィルムが正しく送られていません。裏ぶたを開け、もう一度入れ直してください。



DXコード付フィルム

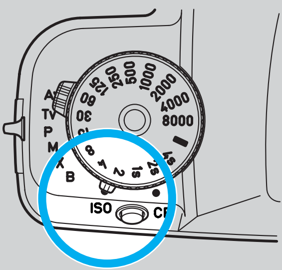
〈フィルム感度の自動設定〉

表示パネルに“DX”が表示されているときは、カメラがDXコードを読み取りフィルム感度を自動セットします。

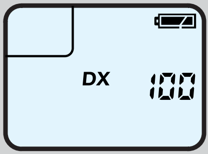
自動セットされるフィルム感度の範囲はISO25～5000です。

- DXコードのないフィルムを入れると、ISO100に自動セットされます。
- 表示パネルに“DX”が表示されていないときは、必ずフィルム感度を手動でセットしてください。（P24参照）

〈フィルム感度の確認〉



表示パネル



フィルム感度

〈フィルム感度の確認〉

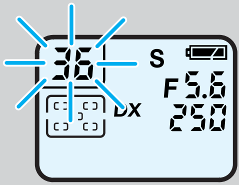
カメラにセットされているフィルムの感度を確認するには、露出モードレバーを“ISO”にします。

表示パネルに“DXまたはISO”とセットされているフィルム感度が表示されます。

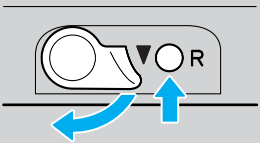
- フィルムに記載されている感度とは異なる感度をセットするときは、P24の“フィルム感度の手動設定”をお読みください。

8. フィルムの取り出しかた

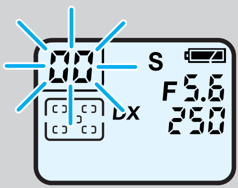
①

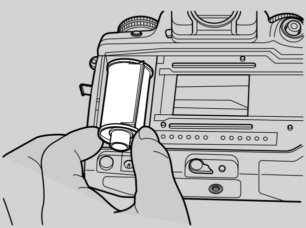


上桁、下桁が交互に点滅



②





フィルムを全部写し終えると、巻き上げが止まりフィルムカウンターの上桁、下桁が交互に点滅します。

1 メインスイッチONの状態で、巻き戻しロック解除ボタンを押しながら、巻き戻しレバーを矢印の方向に回してください。フィルムの巻き戻しが始まります。

巻き戻し中はフィルムカウンターが減算表示し、巻き戻しが終了するとモーターが停止しフィルムカウンターが“00”で点滅します。

2 モーターが停止し、フィルムカウンターが“00”で点滅していることを確認してから、裏ぶたを開けてフィルムを取り出してください。

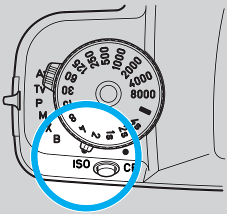
- フィルムの取り出しは直射日光を避けてください。
- フィルム巻き戻し時、フィルムの先端をパトローネの外に残すことができます。（P76カスタム機能一覧表参照）
- 巻き戻し後は、必ずフィルムを取り出してください。巻き戻し後は、一度裏ぶたを開けるまでカメラは作動しません。
- 取り出したフィルムは早めに現像に出しましょう。
- 規定枚数以上撮影すると、最後のコマは現像処理段階でカットされることがあります。
- 撮影の途中でフィルムを巻き戻すときも1、2の順で行ってください。

9. フィルム感度の手動設定

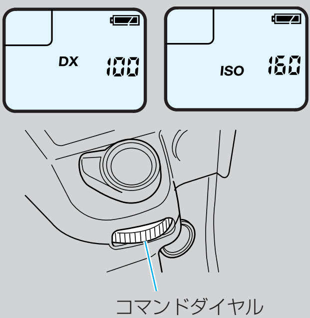
DXコードのないフィルムのフィルム感度のセットや、DX表示と異なる感度に設定する場合は次のようにします。

- 設定できるフィルム感度の範囲はISO 6～6400です。
- 任意の感度にセットすると、DXコード付フィルム使用時も手動セットした値になります。

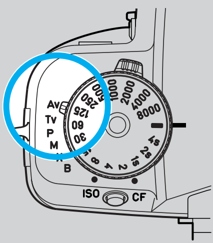
①



②



③



1 **露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モードレバーを“ISO”にセットします。**

表示パネルに“DX”または“ISO”と“フィルム感度”が表示されます。

2 **コマンドダイヤルを動かして、フィルム感度を、“DX”または合わせたい感度値にします。**

DX←→6←→8←→10←→・←→5000←→6400←→DX←→6（繰り返し）

3 **露出モードレバーを露出モードに戻してください。これでセット完了です。**

表示は通常表示に戻ります。

- セットしたフィルム感度は、次にセットし直すまで記憶されています。
- 露出モードレバーが“ISO”、“CF”のときは撮影できません。

10. ドライブモードの切り替えかた

撮影目的に応じて、次のドライブモードを選ぶことができます。

〈“S” …… 1コマ撮影〉

カメラのシャッターボタンを押すごとに1コマ分撮影され、次の巻き上げが行われて停止します。

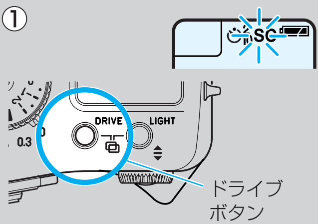
〈“C” …… 連続撮影〉

カメラのシャッターボタンを押している間、最高約3.5コマ／秒の連続撮影ができます。（撮影コマ速度は、シャッタースピードやフィルム感度、データバックの写し込み有り／無し、使用する電池の状態などにより変化します。）

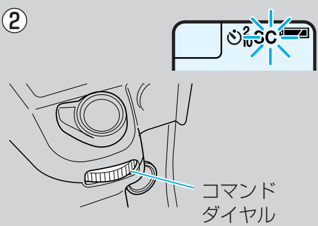
〈“⏲10” “⏲2” …… セルフタイマー撮影〉

セルフタイマー撮影になります。詳しくはP59をご覧ください。

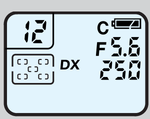
①



②



③



1 ドライブボタンを押すとドライブ設定モードになります。

表示パネルに全ドライブモードが表示され現在選択されているドライブモードが点滅します。

2 コマンドダイヤルを動かして希望のドライブモードを点滅させます。

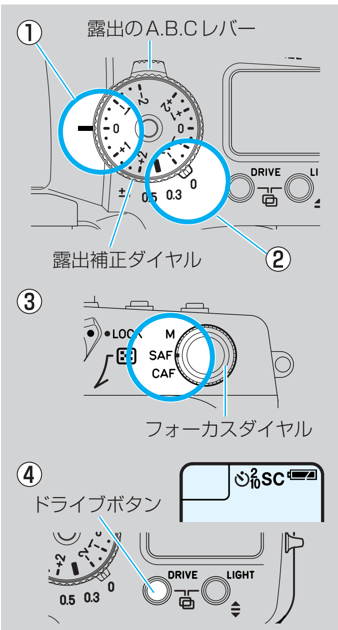
コマンドダイヤルを動かすとドライブモードが次のように切り替わります。

“S” ⟷ “C” ⟷ “⏲2” ⟷ “⏲10”

3 ドライブボタンを押すとドライブモードが確定し、表示パネルは通常の表示に戻ります。

簡単な撮影方法
〈プログラムオートを利用した撮影〉

プログラムオートを利用して簡単な撮影をしてみましょう。プログラムオートは被写体の明るさに応じて、撮影時のシャッタースピードと絞り値の組み合わせ（露出値）をカメラが自動的にセットします。初めてカメラをお使いになる方や、露出設定を気にせず気軽に撮影したい方におすすめします。



あらかじめ、メインスイッチを“ON”にして各モードを次のようにセットします。

1 露出補正ダイヤルを“0”にセットします。

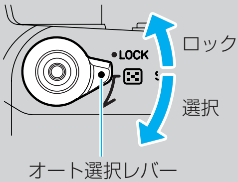
2 露出のA･B･Cレバーを“0”にセットします。

3 フォーカスダイヤルを“SAF”にします。

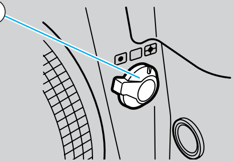
4 ドライブモードを“S”（1コマ撮影）にセットします。

● セット方法はP25をご覧ください。

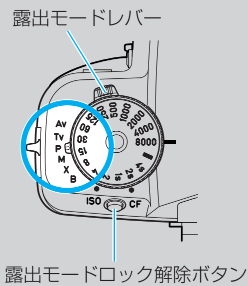
⑤



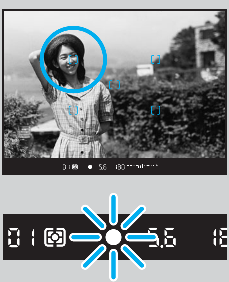
⑥



⑦



⑨



5 オート選択レバーを矢印方向に数回動かして表示パネルのフォーカスフレーム選択表示を“ ”にし、レバーを上に動かしてロックします。

6 測光モードを“ ”（評価測光）にします。

7 露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モードレバーを回して“P”にセットします。

8 ファインダー内のフォーカスフレームを被写体に向けてシャッターボタンを半押しします。（フォーカスフレームは5個の内どれでも構いません。）

9 ピント合わせが行われ、被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったフォーカスフレームが一瞬赤く光り、“○”（合焦マーク）が点灯します。

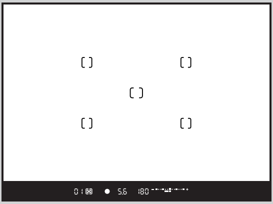
10 シャッターボタン半押しのまま構図を決め、シャッターボタンをさらに押し込んで撮影します。

ピント合わせ

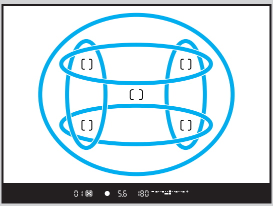
このカメラのピント合わせは、カメラが自動的に行うオートフォーカス（AF）と手動で行うマニュアルフォーカス（MF）があります。
AFには、静止している被写体の撮影など一般的な撮影に便利な“SAF”（シングルAF）と、動きのある被写体を連続的に追う場合に便利な“CAF”（コンティニュアスAF）があります。
またAF時のピント合わせ範囲（フォーカス範囲）は、一般的な撮影に便利な、ある範囲の中でピント合わせを行う“オート選択モード”と、選択されたポイントで的確にピントを合わせる“マニュアル選択モード”があります。
さらに、次のような機能も搭載していますので、撮影意図に合わせてご活用ください。

① “SAF”時のフォーカスロック状態からレンズの距離リングを手で回すと、自動的にマニュアルフォーカスに切り替わる『デュアルフォーカスメカニズム』（P32）
② “MF”時にフォーカスボタンを押すと、押している間オートフォーカスによるピント合わせを行う『ワンショット･オートフォーカス』機能。（P37）

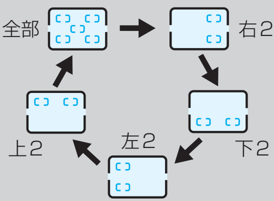
フォーカスフレーム

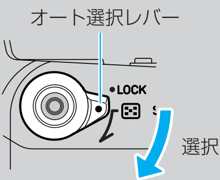


〈オート選択モード〉



〈オート選択モードの切り替え〉





このカメラは画面中央のフォーカスフレームと、対角線上に配置された４つのフォーカスフレームを持っています。フォーカスフレームの選びかたは、被写体の位置に応じて複数のフォーカスフレームのうち、カメラが適切なフォーカスフレームを自動選択する **“オート選択モード”** と任意の１カ所を選択する **“マニュアル選択モード”** があります。
オート選択モードには、５つのフォーカスフレームから適切な１カ所を選ぶ方法と、上下･左右の隣り合う２カ所のフォーカスフレームから適切な１カ所を選ぶ方法があります。またオート選択モードを切り替える操作をしたとき、選択したフォーカスフレームが一瞬赤く照明されます。

〈オート選択モード〉

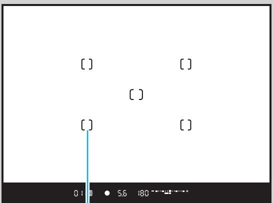
オート選択レバーを矢印方向に動かす毎に、自動選択するフォーカスフレームが図のように切り替わります。

● マニュアルフォーカス時は設定できません。

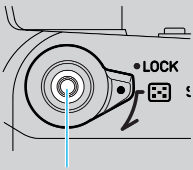
“”：スナップ撮影や旅行のときなどの、一般的な撮影に適します。5つのフォーカスフレームの中から、カメラが自動的に適切なフレームを選びます。

“”：画面の端を等距離の被写体が占めている構図に適しています。選択した2つのフォーカスフレームのうち、撮影距離の近い方を選択してピント合わせをします。

〈マニュアル選択モード〉



フォーカスフレーム
（5カ所の内1カ所を選択）



マニュアル選択レバー

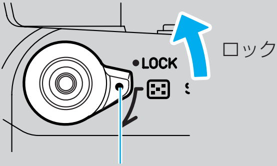
〈マニュアル選択モード〉

マニュアル選択レバーで任意のフォーカスフレームを選択します。対角線上のフォーカスフレームへは、その方向へレバーを倒します。中央のフォーカスフレームを選ぶときは、レバーをプッシュします。選択したポイントで的確にピント合わせを行いたいときに適します。

〈選択したフレームのロック〉

選択したフレームが不用意に動かないようにロックすることができます。
オート選択レバーを“LOCK”の位置に合わせてください。

〈選択したフレームのロック〉



オート選択レバー

表示パネル（表示例）

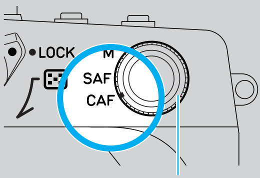


オート選択　マニュアル選択

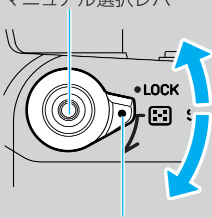
2. オートフォーカスによるピント合わせ

フォーカスダイヤルが“SAF”、“CAF”のときシャッターボタン半押しでオートフォーカスが作動します。シャッターボタンの半押し時に選択されているフォーカスフレームが一瞬赤く照明されます。また測距の後、ピントを合わせたフレームが一瞬赤く照明されます。

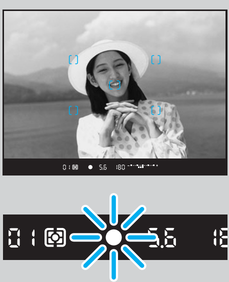
①



②



③



1 フォーカスダイヤルを、“SAF”シングルオートフォーカス）または“CAF”（コンティニュアス・オートフォーカス）にセットします。

2 フォーカスフレームを選びます。
オート選択レバーまたはマニュアル選択レバーでフォーカスフレームを選びロック（固定）します。

3 ピントを合わせたい被写体に、選んだフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。
自動的にピント合わせが行われ、ピントが合うとファインダー内の合焦マーク“○”が点灯します。

4 そのままシャッターボタンを押し込んで撮影してください。

AF補助光について：被写体が暗いときやコントラストが低くピントが合わせにくい場合は、自動的にAF補助光を被写体に照射してAFの精度を高める機構になっています。このときの照射部は画面の中央になります。
AF補助光の有効距離は約5mです。

〈“SAF”シングルオートフォーカス〉

静止している被写体の撮影など一般的な撮影の場合におすすめします。

シャッターボタン半押しでピント合わせを行い、一度ピントが合うとその位置でピントを固定（フォーカスロック）します。

- ピントが合うとシャッターが切れ、ピントが合わないとシャッターが切れません。
- ピント合わせができないとき（“▷◁”点滅）は、等距離にある別の被写体でフォーカスロックして撮影してください。（P34）
- “▷◁”点滅中でも、シャッターチャンス優先で撮影したいときは、フォーカスボタンを押しながらシャッターボタンを押してください。シャッターを切ることができます。
- ドライブモードが“C”（連続撮影）のときは、最初の写真でピントが固定し、そのピント位置での連続撮影になります。

〈デュアルフォーカスメカニズム〉

フォーカスモードが“SAF”のとき、合焦マーク“○”が点灯中に手でレンズの距離リングを回すと、自動的にマニュアルフォーカスに切り替わり、ピントの微調整をすることができます。

〈“CAF”コンティニュアス・オートフォーカス〉

動きのある被写体を連続的に追う場合におすすめします。

シャッターボタンを半押ししている間、連続してピントを合わせ続けます。ピントが合っていることを確認して撮影してください。

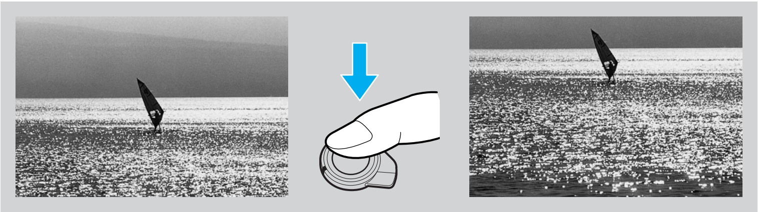
- 連続撮影“C”では1コマごとにピントを合わせ続けながらの連続撮影になります。
- “▷◁”が点滅し、ピント合わせができないときでもシャッターボタンを押すとシャッターが切れます。
- 被写体の動きや変化により、ピント合わせが連続撮影に追従できない場合があります。

〈フォーカスモードとドライブモードの関係〉

フォーカスモード ／ ドライブモード	"SAF"（シングル・オートフォーカス）	"CAF"（コンティニュアス・オートフォーカス）	"M"（マニュアルフォーカス）
"S" 1コマ撮影	シャッターボタン半押しでピント合わせを行い、一度ピントが合うとその位置でピントを固定（フォーカスロック）します。 ● ピントが合わないと、シャッターが切れません。	シャッターボタン半押ししている間、連続してピントを合わせ続けます。 ● ピント合わせができなくてもシャッターを切ることができます。	手でレンズの距離リングを回してピント合わせを行います。
"C" 連続撮影	ピント合わせは1コマ撮影と同じ。連続撮影時は最初のコマ（写真）でピントを固定しての撮影になります。	ピント合わせは1コマ撮影と同じ。連続撮影時は、1コマごとにピントを合わせ直します。	ピント合わせは1コマ撮影と同じ。

〈フォーカスロック〉

オートフォーカスのとき、構図によってピントを合わせたい被写体がフォーカスフレームからはずれる場合には、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影します。



❖ “SAF”シングルオートフォーカスのとき

1 **ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。**

ピント合わせが行われ、ピントが合うとファインダー内合焦マーク“○”が点灯し、その位置でフォーカスロックされます。

2 **シャッターボタンを半押ししたまま写したい構図にカメラを戻し、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。**

- シャッターボタンを半押ししている間はピントはロックされていますので、カメラの向きを変えてもピントは変わりません。
- フォーカスロックは、シャッターボタンから指を離すと解除されます。

❖ “CAF” コンティニュアス･オートフォーカスのとき

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスフレームを向け、シャッターボタンを半押しします。

シャッターボタンを半押ししている間、連続してピントを合わせ続けます。

2 ファインダー内合焦マークが点灯していることを確認して、フォーカスボタンを押してください。

フォーカスボタンを押した所でフォーカスロックします。

3 フォーカスボタンを押したまま写したい構図にカメラを戻し、さらにシャッターボタンを押し込んで撮影します。

● フォーカスボタンを押している間、ピントはロックされています。

〈オートフォーカスの苦手な被写体〉

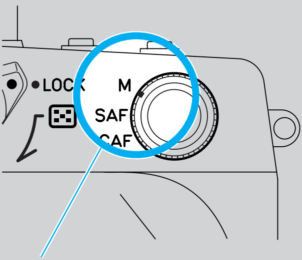
オートフォーカス機能を使っても、次のような被写体はピント合わせが難しいので、“ ▷◁ ” 合焦不能マークが点滅することがあります。このようなときは、フォーカスロックを利用して、等距離にある別の被写体に一度ピントを合わせてから撮影を行うか、マニュアルフォーカスでピント合わせを行ってください。

① 非常に明るいか非常に暗い被写体。
② 被写体のコントラストが極度に低いとき。
③ フォーカスフレーム部やその周辺に太陽光などの強い光源があるとき。
④ フォーカスフレーム内に極度に距離の違う２つ以上の被写体が共存するとき。
⑤ 繰り返しパターンが続く被写体。
⑥ NDフィルターや偏光フィルターなどにより、被写体からの光量が極端に少なくなった場合。

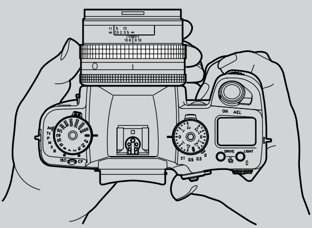
3. マニュアルフォーカスによるピント合わせ


ピントが合っている。


ピントが合っていない。



フォーカスダイヤル



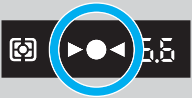
〈ピントの合わせ方〉

フォーカスダイヤルを“M”にセットします。
ピント合わせは、手動でレンズの距離リングを回して行います。

このカメラはフォーカシングスクリーンFX-2（全面マット）が標準装備されています。
ピントが合っているときは、マット面の像がはっきりと見え、ピントが合っていないとボケます。

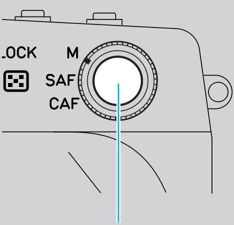
● マニュアルフォーカスモードにすると、フォーカスフレームの選択は“マニュアル選択モード”になります。

マニュアルフォーカス時、ファインダー内にはフォーカス表示が、選択されているフォーカスフレームに対する測距結果を表示します。



"▷" 点滅：被写体よりも遠方にピントが合っている（後ピン）
"○" 点灯：被写体にピントが合っている（合焦）
"◁" 点滅：被写体よりも手前にピントが合っている（前ピン）

- 選択されているフォーカスフレームにピントが合ったとき、フレームが赤く照明されます。
- フォーカシングスクリーンは撮影目的や用途に応じて交換することができます。詳しくはP93をご覧ください。



フォーカスボタン

〈ワンショット・オートフォーカス〉

マニュアルフォーカス撮影中でも、オートフォーカスが使用できます。フォーカスボタンを押すと、押している間カメラがピントを合わせを行い、一度ピントが合うとその位置でピントが固定します。
ワンショット・オートフォーカスとしてご利用ください。

4. ピントの位置を自動的にずらして撮る（フォーカス-A・B・C撮影）

このモードを使用すると、１コマ目のピント位置に対して、わずかに前ピン、後ピンの写真を続けて撮影することができます。非常に微妙なピントを狙うときにこのモードを使用してください。

１コマ目のピント位置はマニュアルフォーカスで合わせます。１コマ目のピント位置を基準に、２コマ目（前ピン）、３コマ目（後ピン）へのピント移動はカメラが自動的に行います。フォーカス-A･B･C撮影を行う毎に必ず１コマ目のピント合わせを行ってください。

※A･B･C：Automatic Bracketing Control

〈ピント位置のずらし量について〉

① ピント位置のずらし量は非常にわずかの量ですので、通常の撮影で必ずこのモードで効果が現れるというわけではありません。

② ピント位置のずらし量は、取り付けているレンズの開放絞り値での被写界深度分です。

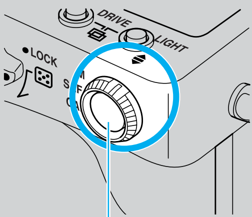
③ ピントをずらしたことによる画面効果は使用しているレンズや撮影距離、使用絞りで異なります。一般的に

- ●撮影距離が遠いほど、撮影画面に現れる効果は少なくなります。
- ●絞りを絞るほど撮影画面に現れる効果は少なくなります。
- ●ピントを合わせたい部分が画面の中で占める割合が大きいと撮影画面上の効果は少なくなります。
- ●ピントを合わせたい部分とそれ以外（背景、前景）との距離が近いと撮影画面上の効果は少なくなります。
- ●撮影画面を大きく引き伸ばすと、ピント位置をずらした効果が分かり易くなります。

■カスタム機能の変更（P76）で次のことができます。

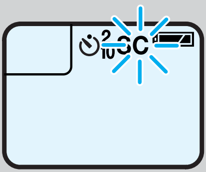
- ●ピントをずらす量を２倍にすることができます。
- ●１コマ目のピント合わせを“SAF”にすることができます。
- ●３コマ目を無し（後ピン無し）にすることができます。２コマ撮影し終わると止まります。

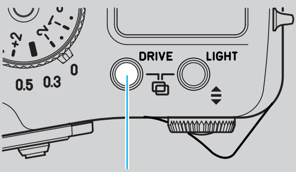
①



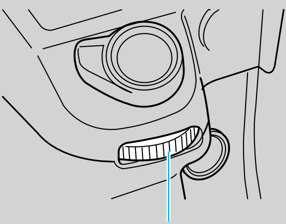
フォーカスダイヤル

②





ドライブモードボタン



コマンドダイヤル

1 **フォーカスダイヤルを“⬍”にセットすると、フォーカス-A･B･Cモードに切り替わります。このときピント合わせはマニュアルフォーカスにセットされます。**

2 **ドライブモードを“C”（連続撮影）にセットします。**

● ドライブモードのセット方法はP25をご覧ください。

3 **マニュアルフォーカスで被写体にピントを合わせ、1コマ目のピント位置（基準位置）を決めます。**

4 **シャッターボタンを押し続けます。**

自動的に基準位置、前ピン、後ピンの順で撮影し、3コマ撮影し終わると止まります。

● レンズは3コマ目のピント位置で停止します。そのまま連続してフォーカス-A･B･C撮影を行うと、3コマ目のピント位置を基準にして、次のフォーカス-A･B･C撮影を行います。フォーカス-A･B･C撮影を行う毎に必ず1コマ目のピント合わせを行ってください。
● ドライブモードを“S”にすると1コマごとのフォーカス-A･B･C撮影になります。ドライブモードを“⏲2”または“⏲10”にすると、2または10秒後に連続撮影によるフォーカス-A･B･C撮影になります。

フォーカス-A･B･C撮影中は撮影順序を示すため、フィルムカウンターが次のように変化します。

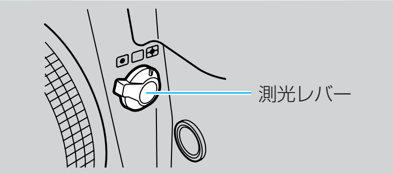
例えば18コマ目からフォーカス-A･B･C撮影を行った場合は次のようになります。

	1コマ目	2コマ目	3コマ目
ピント位置	標　　準	前ピン	後ピン
カウンター	18	19	20
表　　示	左右点滅	左側点滅	右側点滅

- 途中で中止するときは、フォーカス-A･B･Cダイヤルを“◆”以外にしてください。
- フォーカス-A･B･C作動中にメインスイッチを“OFF”にして再度“ON”にすると、フォーカス-A･B･C撮影はまた1回目より順に3コマ分行われます。
- 露出のA･B･C（3コマ連続自動露出補正P52）と併用すると、1コマ目のピント位置に対してまず露出のA･B･Cを行います。その後、1コマ目の露出値でフォーカス-A･B･Cを行います。
- フォーカス-A･B･C撮影でストロボを使用する場合は、ドライブモードを“S”（1コマ撮影）にして、ストロボの充電を確認して撮影してください。
- マウントアダプターを使用してCONTAX 645用のレンズを装着したときは、このモードは使用できません。

測光方式の選択

このカメラには評価測光と中央重点平均測光及びスポット測光の３通りの測光方式があり、測光レバーで切り替えます。
次ページの『測光方式の種類と特徴』をよくお読みいただき、撮影条件や撮影意図により使い分けると、より精度の高い効果的な写真撮影が行えます。





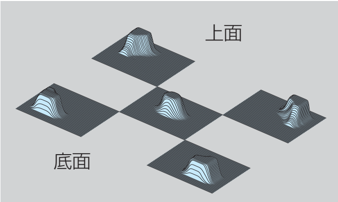
〈露出メーターについて〉
ファインダー内露出メーターは、露出モードにより次の表示をします。

① オート露出撮影（Tv, Av, Pモード）：
測光モードが“評価測光”時は、中央重点平均測光値との差を表示します。“中央重点平均測光”および“スポット測光”時は、露出補正値を表示します。

② マニュアル露出撮影“M”及びストロボ撮影“X”：
露出設定値と設定した測光モードでの適正露出との差を表示します。

③バルブ撮影：表示されません。

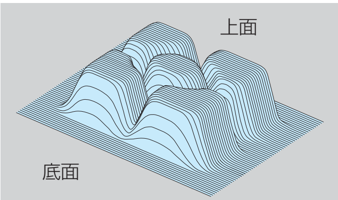
1．測光方式の種類と特徴



測光感度分布図

〈評価測光〉（ マーク）

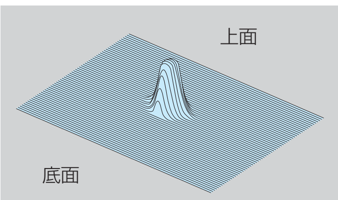
評価測光は、撮影画面を図のように5分割し、それぞれの部分を独立して測光し得られたデータから被写体の条件に最適な露出値を決めます。このため、**一般的な撮影はもちろん、逆光などの撮影でもほとんど露出補正無しに撮影することができます。**



測光感度分布図

〈中央重点平均測光〉（ マーク）

主にファインダー画面中央部の被写体の明るさを重点的に、かつ周辺部の明るさも加味して測光を行い、露出値を決定する方式です。光の変化が激しい所でもよく対応しますので、**一般の撮影はもちろん、動きの激しいものでも容易に露出を決めることができます。**



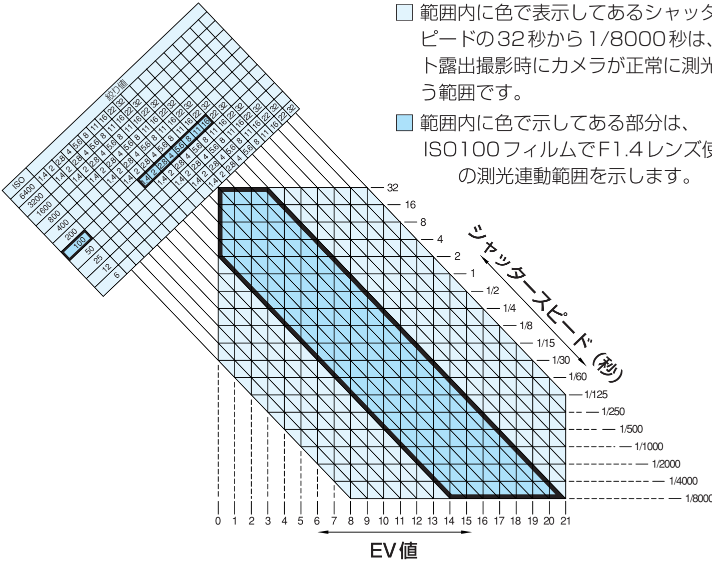
測光感度分布図

〈スポット測光〉（ マーク）

ファインダー中央部の約φ3mmの範囲（P11、図中点線部）にあたる被写体の明るさのみ測光して、露出を決める方式です。

たとえば、逆光の人物や特定の部分にライティングを活かした舞台撮影など、**被写体と背景の明るさが極端に違う場合**、また画面効果を考えて、**特に被写体の一部分だけを測光して撮影したい場合**などは、このスポット測光を利用します。

2. 測光連動範囲



□ 範囲内に色で表示してあるシャッタースピードの32秒から1/8000秒は、オート露出撮影時にカメラが正常に測光を行う範囲です。

■ 範囲内に色で示してある部分は、ISO100フィルムでF1.4レンズ使用時の測光連動範囲を示します。

〈測光連動範囲〉

表は、絞り、シャッタースピード、EV値の相互関係を示すもので、使用レンズの測光連動範囲を表しています。たとえば中央重点平均測光時にISO100のフィルムでF1.4レンズを使用した場合、絞り表のISO100の項の“1.4”と“16”（プラナーT＊50mmの最小絞り値はF16です）から斜めに延長した線上で垂直線（EV線）と水平線（シャッタースピード線）が交わる点が示す両端の範囲すなわちEV“0”からEV“21”がF1.4レンズの使用時の測光連動範囲です。

※ EV値とは、露出計の連動範囲を示す数値で、外光の明るさが一定のときに、フィルムに同一露光効果を与える絞りとシャッター.スピードの組み合わせを示すものです。たとえば、表によりEV13では、F16,1/30秒でもF8,1/125秒でも同じ露光効果が得られることがわかります。

撮影目的に合わせた応用撮影

被写体や撮影目的に合わせて、最適な撮影モードを選択することができます。

1. 絞りを決めて撮る“Av”（絞り優先オート撮影）

（AvとはAperture valueの略で絞り量のことです。）

絞りをセットすると、被写体の明るさに応じてカメラが自動的にシャッタースピードをセットします。

作例1： 絞りを開けて撮影すると、鮮明に写る範囲（＊被写界深度P60）が狭くなります。被写体を浮かび上がらせ、背景をぼかしたいときなどに利用します。

作例2： 絞りを絞り込んで撮影すると鮮明に写る範囲（＊被写界深度P60）が広くなります。被写体も背景も鮮明に写したいときなどに利用します。

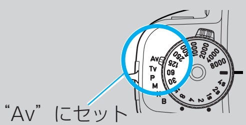
作例1：絞りを開けた場合



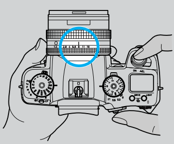
作例2：絞りを絞り込んだ場合



①



②



1 露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モードレバーを“Av”にセットします。

2 レンズの絞りリングを回して絞りをセットし、撮影します。

シャッターダイヤルはどの位置にセットしていてもかまいません。
表示パネルとファインダー内にセットした絞り（＊）と自動セットされたシャッタースピードが表示されます。

＊ズームレンズの絞り表示はP12をご覧ください。

2. シャッタースピードを決めて撮る“Tv”（シャッター優先オート撮影）（TvとはTime valueの略で時間量のことです。）

シャッタースピードをセットすると、被写体の明るさに応じてカメラが自動的に絞りをセットします。動きのある被写体などの撮影に適しています。次の作例を参考に目的に合わせてシャッタースピードを調節してください。

作例１： 被写体の動きの瞬間を撮影したいときは、速いシャッタースピードにセットします。

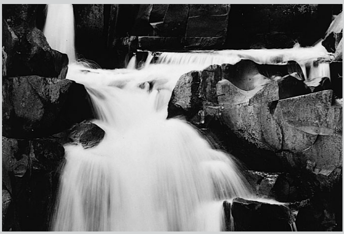
作例２： 水の流れ等を表現したいときは、遅いシャッタースピードにセットします。

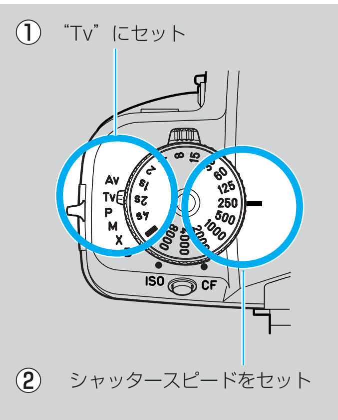
● 遅いシャッタースピードのときはカメラぶれ防止のため、三脚をご使用ください。

作例１：速いシャッタースピード



作例２：遅いシャッタースピード





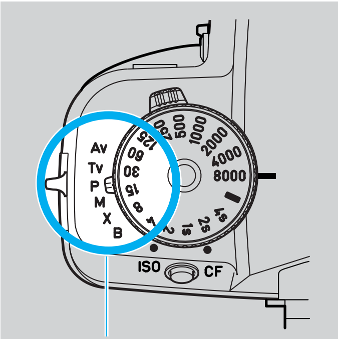
1 **露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モードレバーを“Tv”にセットします。**

2 **シャッターダイヤルを回してシャッタースピードをセットし、撮影します。**

絞り目盛りはどの位置にセットしていてもかまいません。
表示パネルとファインダー内にセットしたシャッタースピードと自動セットされた絞りが表示されます。

3. プログラムオートで撮る“P”（プログラムオート撮影）

あらかじめプログラムされている絞りとシャッタースピードの組み合わせの中から、被写体の明るさに適した組み合わせをカメラが自動的に選びます。露出を気にせず、気楽に撮影するときに便利です。



“P”にセット

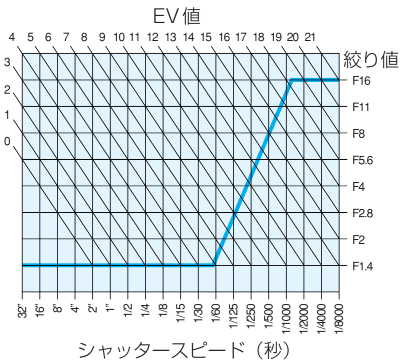
1 露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モードレバーを“P”にセットします。

2 撮影します。

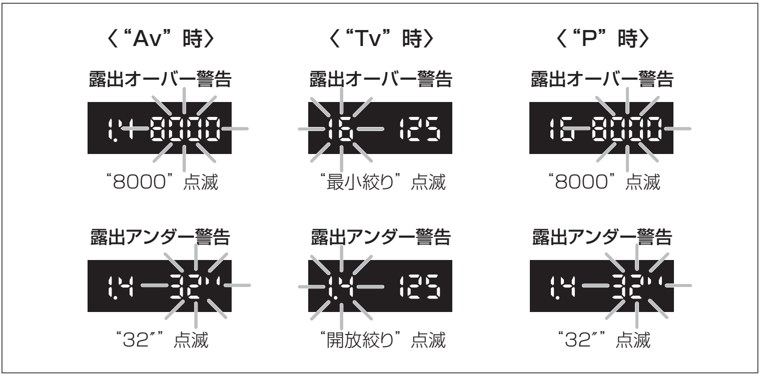
自動セットされたされた絞りとシャッタースピードが表示パネルとファインダーに表示されます。
絞り目盛りとシャッターダイヤルの位置はどこにセットされていてもかまいません。

〈プログラムオート制御図〉

プログラムオートでの絞りとシャッタースピードの組み合わせは図のようになります。またこのプログラムラインは、レンズの焦点距離によってシフトします。（F1.4／50mmレンズ使用、ISO100にセット）



〈オート露出撮影時の警告表示について〉



露出オーバー警告

絞り優先オート撮影時にはシャッタースピード“8000”が点滅、シャッター優先オート時には装着レンズの“最小絞り値”が点滅、プログラムオート撮影時にはシャッタースピード“8000”が点滅し露出オーバーの警告をします。被写体が明るすぎますので、絞りまたはシャッタースピードを調整し直して、点滅表示が点灯表示になるようにしてください。また別売りや市販のNDフィルター（光量制限用）で光を調整することもできます。

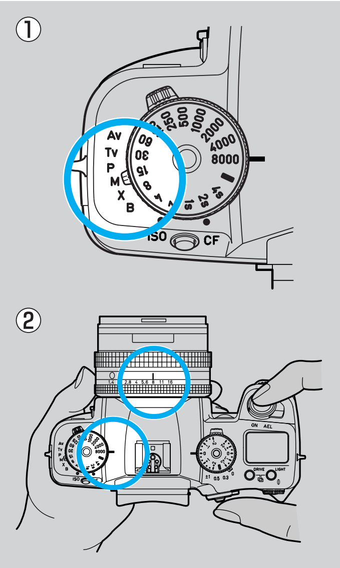
露出アンダー警告

絞り優先オート撮影時にはシャッタースピード“32″”が点滅、シャッター優先オート時には装着レンズの“開放絞り値”が点滅、プログラムオート撮影時にはシャッタースピード“32″”が点滅し露出アンダーの警告をします。被写体が暗すぎますので、照明を加えて被写体を明るくしたり、シャッタースピードや絞りを変えて点滅表示が点灯表示になるようにしてください。また、専用のストロボを使うと明るくきれいな写真が撮れます。

●露出オーバー/アンダー警告時でも、シャッターボタンを押せば撮影できます。

4. 自分で露出を決めて撮る“M”（マニュアル露出撮影）

絞りとシャッタースピードを撮影意図や目的に合わせて任意にセットし、撮影する方法です。また意図的に露出オーバーやアンダーにすることも簡単にできます。ファインダー内露出メーターの表示を参考に露出を決めてください。



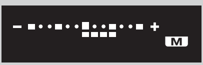
1 露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モードレバーを“M”にセットします。

2 シャッタースピードと絞りをセットします。

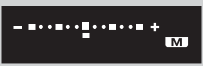
ファインダー内には、セットしたシャッタースピードと絞りが点灯表示されます。
露出メーターには適正露出との差が表示されます。シャッターダイヤルまたはレンズの絞りリングを動かし、露出メーター表示を“適正”にしてください。

3 ピントを合わせ撮影します。

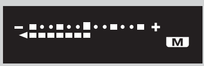
露出メーター表示例



1EVオーバー



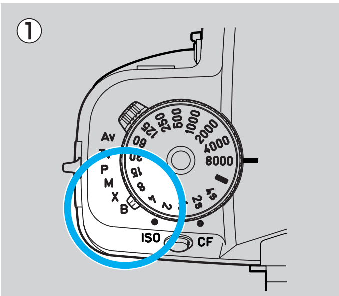
適正

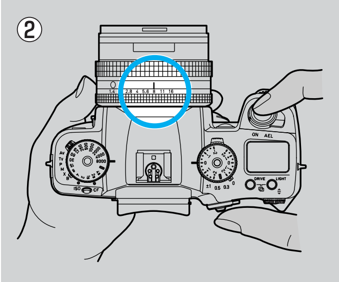


2EV以上アンダー

5. バルブ撮影







長時間露光を必要とする夜間撮影や天体撮影を行うときに使用します。

1 露出モードロック解除ボタンを押しながら、露出モードレバーを“B”にセットします。

ファインダー内表示パネルのシャッタースピード表示部に“buLb”と表示されます。

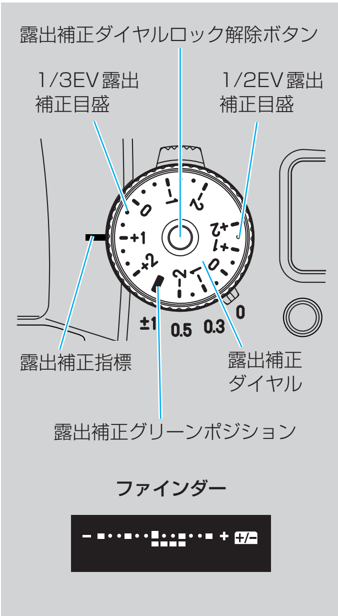
2 絞りをセットし撮影します。

シャッターボタンを押している間シャッターが開いて露光されます。

- カメラぶれを防ぐため、三脚で固定するか、安定した台などに置き、別売りのケーブルスイッチLAタイプをカメラに接続して撮影してください。
- 露光中、表示パネルのフィルムカウンターはバルブ撮影の経過時間を示すタイマー表示に切り替わります。表示は“00”から“59”(59秒)までカウントされ以後その繰り返しになります。
- 露光中は、ファインダー内表示がすべて消えます。

6. 露出を補正して撮る

オート露出撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合、あるいは意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときには、次の２通りの露出補正方法があります。



〈露出補正ダイヤルの利用〉

補正値を決めて撮るときは露出補正ダイヤルを使用します。

露出モードが“Av、Tv、P、M”いずれの場合も通常は露出補正ダイヤルを“0”にセットしておきますが、露出を補正するときは、露出補正ダイヤルを回して希望する補正値を露出補正指標に合わせてください。補正値は＋2EV～－2EVまでの範囲内で1/3EVまたは1/2EVごとにセットすることができます。

補正値と“＋／－”マークがファインダー内露出メーターに表示されます。

- 1/3EVと1/2EVの切り換えは、露出補正ダイヤルロック解除ボタンを押しながら露出補正ダイヤルを回して行います。
- 評価測光設定時は、ファインダー内露出メーターには表示されません。

露出モード	露出補正する内容
絞り優先オート（Av）	シャッタースピード
シャッター優先オート（Tv）	絞り
プログラムオート（P）	絞りとシャッタースピード

●“M”時は、露出補正ダイヤルによる露出補正はできません。露出を補正するときは、露出メーターに適正露出との“差”が表示されますので、シャッタースピードダイヤルまたは絞りリングを動かし、露出メーター表示を希望する“差”（補正量）になるようにして撮影してください。
●撮影終了後は、必ず露出補正ダイヤルを“0”に戻してください。


（＋補正）


（補正無し）

逆光撮影などのときは････

“＋1/3EVまたは＋1/2EV～＋2EV”の範囲で補正します。

中央重点平均測光の場合、逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。このようなときは、露出を＋1/3EVまたは＋1/2EV～＋2EVの範囲で補正して、露出を多く与えます。


（－補正）


（補正無し）

暗い背景などのときは････

“－1/3EVまたは－1/2EV～－2EV”の範囲で補正します。

スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、中央重点平均測光で撮影すると人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは、露出を －1/3EVまたは－1/2EV～－2EVの範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。

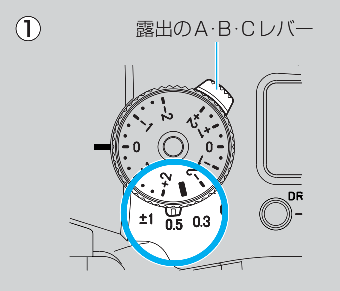
〈露出を自動的に３段階変えて撮る（露出のA·B·C撮影）〉

露出のA·B·Cモードにセットすると、自動的にスタンダード、オーバー、アンダー、と３段階の露出バリエーションで連続撮影ができます。
非常に微妙な露出条件のもとでても、露出決定に気を取られることなくシャッターを押し続け、チャンスを確実にものにすることができます。

※ A·B·C : Automatic Bracketing Control

露出のA·B·C撮影は、シャッタースピードまたは絞りを制御して自動露出補正を行います。

露出モード	制御内容
"Av"絞り優先オート	シャッタースピード
"Tv"シャッター優先オート	絞り
"P"プログラムオート	絞りとシャッタースピード
"M"マニュアル露出	シャッタースピード

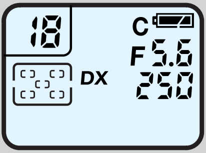


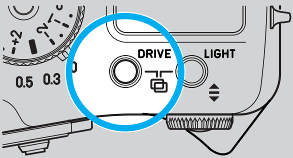
1 露出のA·B·Cレバーを動かし、補正幅をセットすると、露出のA·B·C撮影に切り替わります。

補正幅は±0.3EV、±0.5EV、±1EVの３種類が設定できます。

- 露出補正ダイヤルを"0"以外にセットすると、その補正値を基準にした露出のA·B·C撮影になります。
- 撮影するごとに測光し直し、そのときの測光値に対して補正を行います。周囲の明るさの変化による影響を受けずに露出のA·B·C撮影がしたいときは、あらかじめAEロックをしてから撮影することをおすすめします。
- 露出のA·B·C撮影が終了したら、必ず露出のA·B·Cレバーを"0"に戻してください。
- ストロボを併用する露出のA·B·C撮影はできません。

②

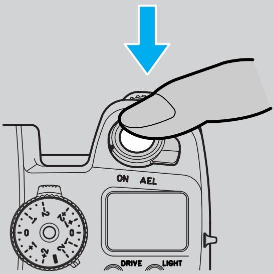




2 ドライブモードを“C”（連続撮影）にセットします。

● ドライブモードのセット方法はP25をご覧ください。

③



3 被写体にピントを合わせ、シャッターボタンを押し続けます。

セットした補正幅に従って、スタンダード、オーバー、アンダー、の順で撮影し、３コマ撮影し終わると止まります。

ドライブモードを“S”にすると１コマごとの露出のA·B·C撮影になります。ドライブモードを“⏲2”または“⏲10”にすると、２または１０秒後に連続撮影による露出のA·B·C撮影になります。

露出のA·B·C撮影中は撮影順序を示すため、フィルムカウンターが次のように変化します。



スタンダード：両方の桁が点滅
オーバー　　：左側の桁のみが点滅
アンダー　　：右側の桁のみが点滅

● ファインダー内には“E”マークが点灯します。



スタンダード



オーバー



アンダー

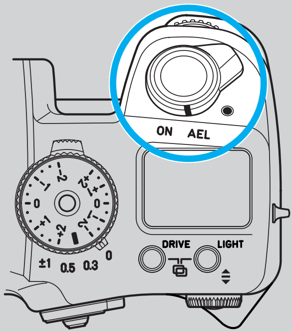
例えば18コマ目から露出のA·B·C撮影を行った場合は次のようになります。

	1コマ目	2コマ目	3コマ目	（以後繰り返し）
補　　正	スタンダード	オーバー	アンダー	スタンダード
カウンター	18	19	20	21
表　　示	左右点滅	左側点滅	右側点滅	左右点滅

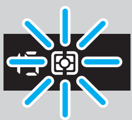
- 補正幅がカメラの補正限界を越えるときは、限界補正値で撮影されます。
- 途中で中止するときは、露出のA·B·Cレバーを“0”にしてください。
- 露出のA·B·C作動中にメインスイッチを“OFF”にして再度“ON”にすると、露出のA·B·C撮影はまた1回目より順に3コマ分行われます。
- 補正順序を、オーバー → スタンダード → アンダーに変更することができます。（P76）

〈露出を固定して撮る（AEロック）〉

オート露出撮影時に、被写体の露出（絞りとシャッタースピードの組み合わせ）を記憶する機構です。逆光時での撮影や動く被写体を一定の露出で連続撮影するときなど、露出を固定したいときに使います。



AEL（AEロック状態）



1 意図する構図のうち、まず主要被写体にファインダーの中央部分を向け、メインスイッチを“ON”→“AEL”に切り替えます。これで露出が固定（AEロック）されます。

特に狭い範囲に露出を合わせたいときは、測光レバーをスポット測光にしてAEロックしてください。

- AEロック中は、ファインダー内の測光マークが点滅に変わります。
- AEロックのセットは、ファインダー内表示が点灯しているときに行ってください。
- シャッターボタン半押しで“AEロック”するように変更できます。（P76）
- 露出チェックボタンを押すと“AEロック”するように変更できます。（P76）





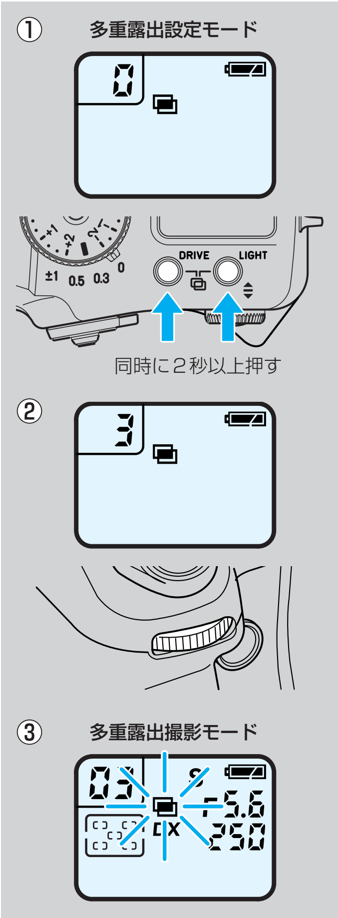
2 ファインダーを元の意図した構図に戻して撮影します。

- AEロック中は、露出が記憶され続け、何度でも同じ露出値で撮影できます。表示は省電のため16秒経過後に消灯します。
- 連続撮影（ドライブモード“C”）するときも、あらかじめ被写体の明るさをAEロックしておけば背景の変化による影響を受けずに同じ露出の写真が得られます。
- このカメラは、シャッタースピードと絞りの組み合わせで得られる露出を記憶する、像面光量記憶方式を採用しています。例えば、“Av”のときは、AEロック後に絞りを変えるとシャッタースピードも追従して変化し、全体の露出量を一定に保ちます。
- AEロック中に露出補正ダイヤルを変更すると、露出モードにより露出補正内容は次のようになります。

露出モード	露出補正する内容
絞り優先オート（Av）	シャッタースピード
シャッター優先オート（Tv）	絞り
プログラムオート（P）	絞りとシャッタースピード

7. 多重露出撮影

同じ画面に、違う種類の被写体、あるいは同じ被写体を重ねて写し込むことにより、独特の写真表現ができます。



1 **ドライブボタン“DRIVE”とライトボタン“LIGHT”を同時に２秒以上押し続けると多重露出設定モードになります。**

表示パネルに“ ”マークと“0”（多重露出回数）が点灯表示されます。

2 **コマンドダイヤルを動かし、多重露出する回数をセットします。**

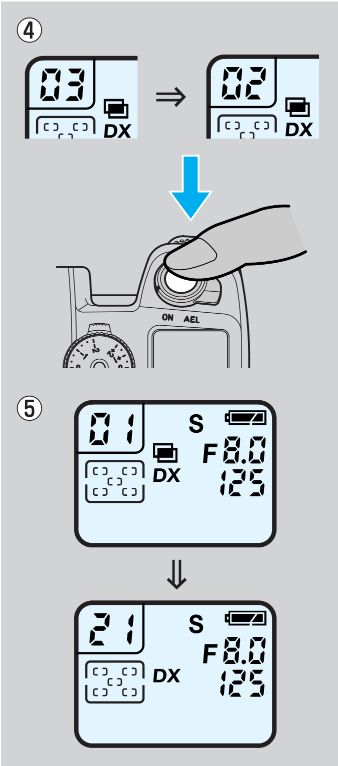
多重露出回数は０⟷２⟷３⟷・・・⟷９（回）までセットできます。例えば“3”を表示させると同じ画面に３回重ねて露光できます。

3 **ドライブボタンを押すと多重露出撮影モードになります。**

表示パネルの多重露出回数が２桁表示“03”になり、“ ”マークが点滅表示になります。

● 多重露出撮影を１回も行わずにメインスイッチを“OFF”にすると、多重露出撮影はキャンセルされますのでご注意ください。

“ ”点灯：多重露出設定モード
“ ”点滅：多重露出撮影モード



4 シャッターボタンを押して１回目の露光を行います。

シャッターボタンを押すと１回目の露光を行い、次の露光のためにシャッターだけがセットされます。
表示パネルの多重露出回数の表示が１回分、減ります。

5 さらにシャッターボタンを押して次の露光を行います。

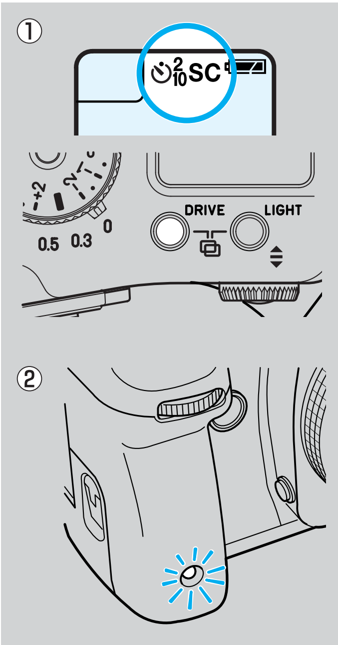
４と同様にシャッターだけがセットされ、多重露出回数がさらに１回分減ります。
最後の露光を行うとフィルムが送られて、表示パネルは通常の表示に戻ります。

- 撮影の途中でメインスイッチを“OFF”にすると、次に“ON”したときは、多重露出の続きの撮影になります。
- 撮影の途中で多重露出回数を変更する場合は、ドライブボタンとライトボタンを同時に２秒以上押し続け、多重露出設定モードに戻します。コマンドダイヤルで回数を変更し、３項からの手順で多重露出撮影を行います。
- 多重露出撮影を途中で中止したい場合は、多重露出設定モードに戻し、多重露出回数を“0”に変更してください。多重露出撮影は終了しフィルム巻き上げが行われます。
- セルフタイマー設定時は、２または１０秒後の多重露出撮影になります。

8. セルフタイマー撮影

セルフタイマー撮影には、次の 2 種類があります。

“⏲10”（10秒）：記念撮影など、ご自身も一緒に写りたいときに使用します。
“⏲2”（2秒）　：接写や複写時のカメラぶれ防止に有効です。



1 **ドライブモードを“⏲10”または“⏲2”にセットします。**

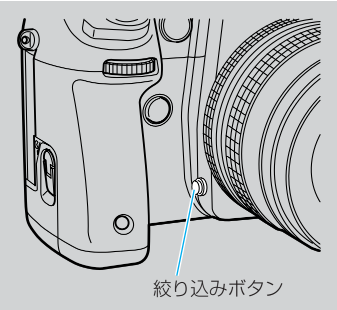
● ドライブモードのセット方法は P25 をご覧ください。

2 **ピントを合わせ、シャッターボタンを押してください。**

セルフタイマーが作動し、10秒または2秒後にシャッターが切れ撮影が行われます。セルフタイマー作動中、カメラ前面のセルフタイマーLEDが点滅します。

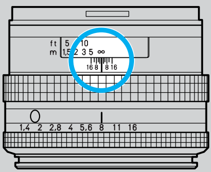
● ファインダーから目を離してのオート撮影では、接眼部からの入射光の影響で適正露出が得られない場合があります。このような場合は、アイピースシャッターを閉じて撮影してください。
● セルフタイマー撮影時は三脚をご使用ください。
● セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すと、セルフタイマー作動が最初に戻り、再スタートします。
● セルフタイマー作動を途中で中止するときは、メインスイッチをOFFにしてください。
● “⏲2”のときは、ミラーアップしてからセルフタイマーが作動します。

9. 被写界深度の確認



レンズの一般的性質として、ある被写体にピントを合わせたとき、被写体自身が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。ファインダーは常に絞り開放の状態になっていますが、**絞り込みボタンを押すとセットした絞り値まで絞り込まれ、被写界深度の確認と背景のぼけ具合を見ることができます。**

● ファインダー内は絞り値に応じて暗くなります。
● 絞り込みボタンを押したまま露出の確認や撮影をしても、適正露出は得られません。



被写界深度目盛



F1.4



F16

〈被写界深度について〉

同じレンズでの被写界深度は次のように変化します。

① 絞りを絞り込むほど被写界深度が深く（前後に広く）、開放にするほど浅く（前後に狭く）なります。

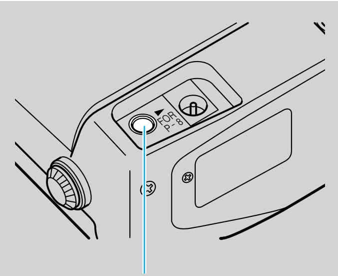
② 被写体の距離が遠いほど被写界深度が深く、近いほど浅くなります。

③ ピントを合わせた被写体の後方に深く、前方に浅くなります。また異なるレンズでは、焦点距離の短いレンズほど深く、焦点距離の長いレンズほど浅くなります。

被写界深度目盛

被写界深度の具体的な範囲は、個々のレンズの被写界深度目盛で確認することができます。

10. ケーブルスイッチソケット

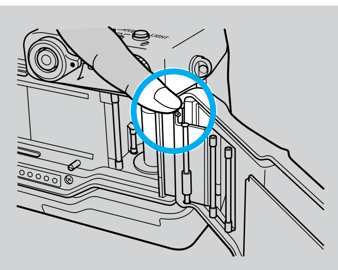


ケーブルスイッチソケット

ケーブルスイッチLAタイプやオートベローズを接続する接点で、これらアクセサリーからの電気信号を伝え、シャッターを作動させます。

- ケーブルスイッチLAタイプを使う撮影で、ファインダーから目を離すオート撮影では接眼部からの入射光の影響で適正露出が得られない場合があります。このような場合は、アイピースシャッターを閉じて使用してください。

11. 裏ぶたの交換



カメラの裏ぶたを取り外し、別売のデータバック D-10（P86）と交換することができます。
裏ぶたは、着脱ピンを押し下げて取り外します。

ストロボ撮影

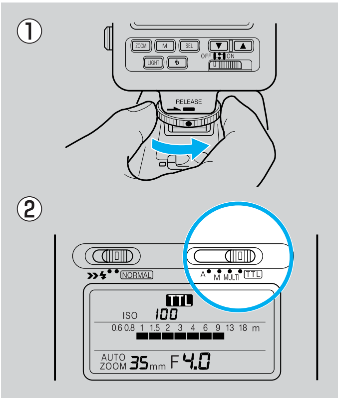
室内や夜間の撮影で、シャッタースピードが1/30秒以下になるときは、ストロボの使用をおすすめします。このカメラとコンタックスTLAフラッシュシステムを組み合わせるとカメラ側でストロボ光を自動制御する“TTLダイレクト調光”による撮影が行えます。
TLA360ストロボをご使用のときは、必ず“当社TLAストロボを使用した撮影”（P63）と“当社TLA360ストロボ”を使用した撮影」（P68）の項を併せてご覧ください。
また、X接点のみの汎用ストロボをご使用する場合には、露出モードレバーを“X”にセットしてご利用いただけます。（P72）

1. 当社TLAストロボを使用した撮影

カメラ側でストロボ光を自動制御して、簡単にストロボ撮影ができます。

〈TTLオートストロボ撮影〉

フィルムに当たる被写体から反射してきたストロボ光量を測光し、ストロボの発光量をコントロールします。（TTLダイレクト調光）



1 **カメラのアクセサリーシューにストロボを取り付け、ストロボの電源を入れます。**

2 **ストロボを“TTLオートモード”にセットします。**

充電が完了するとファインダー内に“ϟ”マークが点灯しカメラの露出モードにより次のようにシャッタースピードが自動セットされます。

❖ Av（絞り優先オート）のとき

自然光の測光値	自動セットシャッタースピード	（表示）
32秒〜1/60秒	1/60秒	“60”が点灯
1/60秒〜1/250秒	1/60秒〜1/250秒	“60”が点灯〜“250”が点灯
1/250秒〜1/8000秒	1/250秒	“250”が点灯

❖ Tv（シャッター優先オート）のとき

シャッターダイヤルのセット	自動セットシャッタースピード	（表示）
4(32)秒〜1/250秒 ( )はコマンドダイヤルセット時	4(32)秒〜1/250秒	（シャッターダイヤルのセット値のまま）
1/250秒〜1/8000秒	1/250秒	“250”が点灯

❖ P（プログラムオート）のとき

自然光の測光値	自動セットシャッタースピード	（表示）
32秒～1/60秒	1/60秒	“60”が点灯
1/60秒～1/250秒	1/60秒～1/250秒	“60”が点灯～“250”が点灯
1/250秒～1/8000秒	1/250秒	“250”が点灯

❖ M（マニュアル）、X（ストロボ）、B（バルブ）のとき

● “M”のときはシャッタースピードが自動セットされません。必ず1/250秒以下にセットしてください。
● セットしたシャッタースピードがファインダー内に表示されます。
● “X”のときはシャッタースピードが1/125秒にセットされ、ファインダー内に“125”が点灯表示されます。
● “B”のときは“バルブ撮影”になり、ファインダー内に“buLb”が表示されます。

3 次の表に従って、絞りまたはシャッタースピードをセットして撮影します。

露出モード	絞りまたはシャッタースピード
P	セットは不要です。カメラが自動的にセットします。
Av、M、X、B	絞りをセットしてください。セットした絞りで撮影されます。
Tv	シャッタースピードを1/250秒以下にセットします。自然光に合わせた適正絞りに自動セットされます。明るいときは自動的に絞り込みます。

● 撮影後調光が行われたときはファインダー内“ϟ”マークが2秒間点滅します。
● 撮影後“ϟ”マークが点滅しないときは露出アンダーになりますので、絞りや撮影距離を変えて撮影し直してください。
● 近接撮影時、“ϟ”が撮影後点滅しても露出オーバーになることがあります。ストロボの取扱説明書記載の撮影範囲で撮影してください。
● 露出のA·B·Cレバーは必ず“0”にしてください。
● ドライブモードが“C”（連続撮影モード）の場合は、ストロボの性能をご確認ください。
● フィルム感度はISO25～800に連動します。（露出補正は含みません。）



スローシンクロ撮影

通常のストロボ撮影



〈スローシンクロ撮影〉

ストロボ撮影で夕景や夜景などの情景を生かした撮影を行うには1/30秒以下のスローシンクロ撮影が有効です。TLAストロボのTTLオートモードを利用すると簡単な操作でスローシンクロ撮影が行えます。

❖ 露出モードが“P”、“Av”のとき

構図を決め、メインスイッチを“AEL”にセットします。シャッタースピードが、自然光の測光値にロックされますのでストロボの充電完了を確認して撮影してください。

❖ 露出モードが“Tv”、のとき

構図を決め、メインスイッチを“AEL”にセットします。絞りが、自然光の測光値にロックされますのでストロボの充電完了を確認して撮影してください。

❖ 露出モードが“M”のとき

シャッタースピードを1/30秒以下にセットします。絞りを動かして自然光の測光値に露出を合わせ露出メーターが“適正”になるようにし、ストロボの充電完了を確認して撮影してください。

● スローシンクロ撮影ではシャッタースピードが遅くなりますので、カメラぶれ防止のために三脚をご使用ください。



デイライトシンクロ撮影

ストロボを使用しない場合



〈デイライトシンクロ撮影〉

屋外の撮影時に、たとえば強い日差しの下や逆光下でそのまま人物を撮影すると、人物は暗くなりがちです。このようなときは、TLA ストロボを使ってTTLオートモードで撮影すると人物も背景もきれいに描写することができます。

❖ 露出モード“P”のとき

明るい所では、自動的に絞りとシャッタースピードが調整されてデイライトシンクロ撮影になります。

❖ 露出モードが“Tv”のとき

明るい所では、自動的に絞りが調整されてデイライトシンクロ撮影になります。

❖ 露出モードが“Av”のとき

ストロボ充電完了後、シャッタースピードの“250”が点滅した場合は、露出オーバーです。絞りを絞り込んで“250”以下の点灯表示にして撮影してください。

❖ 露出モードが“M”、“X”のとき

“M”のときは、シャッターダイヤルを“250”以下にセットしてください。
絞りを調整し、ファインダー内露出メーターが“適正”になるようにして撮影します。



後幕シンクロ撮影



先幕シンクロ撮影

〈後幕シンクロ撮影〉

後幕シンクロは動きのある被写体をスローシンクロ撮影するときに効果があります。

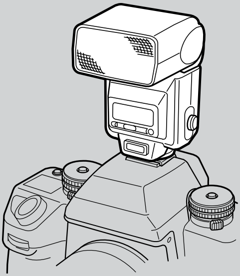
通常のストロボ撮影は、シャッターの先幕が走行を終えた直後にストロボを発光（先幕シンクロ）させて撮影します。このカメラと、後幕シンクロ機能のある当社ストロボとを組み合わせると、後幕が走行を始める直前にストロボを発光（後幕シンクロ）させることができます。
ストロボ光で照らされた被写体の後ろに、自然光で照らされた被写体の動きが流れるように写り、自然な動きを表現できます。

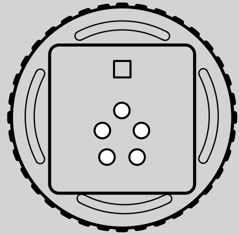
● 後幕シンクロの設定は、ストロボの取扱説明書をご覧ください。
● 露出制御は、通常のストロボ撮影（先幕シンクロ）と同様です。

〈露出補正ダイヤルの利用〉

TTLオート撮影では、ストロボの発光量はカメラの露出補正ダイヤルに連動します。ストロボ光量を調整して効果を出したいときは、露出補正ダイヤルを利用してください。

2. 当社TLA360ストロボを使用した撮影

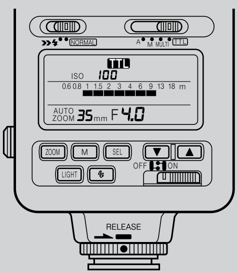




ガイドナンバー36（ISO100・35mmレンズ画角カバー時）の、クリップオンタイプのTTL自動調光方式パワーズームオートストロボです。ストロボオートセットの機能を備えていますので、本機と組み合わせると、従来のTTLオートストロボの機能に加えて次の六つの機能をもった使いやすいストロボです。

● これらの機能は、カメラ上部のアクセサリーシューに直接ストロボを取り付けた場合にご使用いただけます。
TLA延長コードやTLA増灯システムを利用して、カメラのアクセサリーシューから離して使用するときは、ストロボには自動セットされません。

● ストロボオートセット機能を備えた当社TLAストロボはストロボ取り付け脚の接点が5箇所になっています。



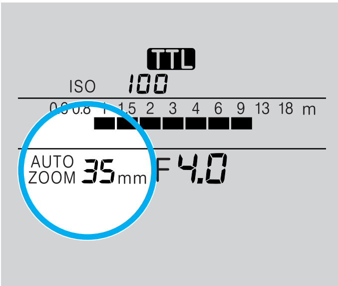
〈1. オートセット機能〉

機能 / ストロボ撮影モード	フィルム感度の自動セット	絞り値の自動セット
TTLオート	○	○
外部測光オート	○	×
マニュアル	○	○
マルチ発光	○	○

○：カメラ側のセットによりストロボにも自動セットします。（ストロボ充電完了時）
×：ストロボには自動セットされません。

〈2. 照射角のオートセット〉

カメラに取り付けたレンズの焦点距離に合わせて、自動的にストロボの照射角がセットされます。



❖ セットのしかた

カメラのアクセサリーシューにストロボを取り付け、ストロボの電源を“ON”にするとカメラに取り付けたレンズに合わせてストロボの照射角が自動的にセットされます。

このときストロボの表示パネルには、自動セットされた照射角がレンズの焦点距離で表示されます。

- セットされるレンズの焦点距離は、24mm, 28mm, 35mm, 50mm, 70mm, 85mmです。
- ズームレンズ装着時は、上記の範囲でレンズのズーミングに連動します。
- ズームレンズの焦点距離表示とストロボに表示される焦点距離がずれる場合がありますが、配光特性上の問題はありません。
- ストロボの表示が“AUTO ZOOM”のときレンズを交換すると、交換したレンズに合わせて照射角が再セットされます。

〈3. 照射角の手動セット〉

ストロボのズームボタンを押すと、手動セットになります。ズームボタンを押すごとにZOOM焦点距離が切り替わりますので、希望の焦点距離を表示パネルに表示します。

〈4. ストロボ光量の補正〉

“TTLオートストロボ撮影”モードで行います。他のモードでは、補正することができません。

● 補正は－3EV～＋1EVの範囲で1/3ステップごとに行えます。
● ストロボの補正は、カメラの露出補正の値を基準にして発光量を補正します。たとえば、カメラの露出補正を“＋1”、ストロボ側の補正を“＋1”とすると、ストロボの発光量は＋2EVになります。

1 **ストロボの“SEL”ボタンを押します。**

● ストロボの表示パネルに補正目盛が表示され、“+/－”マークが点滅します。

2 **ストロボの“▲”“▼”アップ／ダウンボタンを押して補正目盛を希望する値にします。**

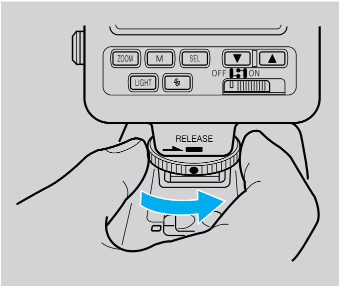
3 **再度“SEL”ボタンを押します。**

“+/－”マークが点灯表示になり、補正のセットが完了です。

● ストロボ表示パネルの補正目盛は、ストロボ側の補正量を表示します。
● ストロボ側の補正量が“0”（補正しない）ときは、8秒後に補正目盛は消灯します。

〈5. “オートOFF”、“オートON”機能〉

ストロボの電源スイッチを“オートOFF”にセットしたとき、ストロボの電源が約80秒で自動的にOFFになります。またカメラのシャッターボタンを半押しすることで“オートON”になり、ストロボの充電が開始されます。
長時間のストロボ撮影時、省電効果があります。

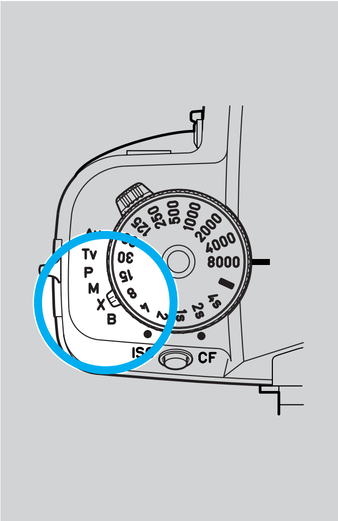


〈6. シューストッパー〉

TLA360の“取り付け脚”には、ストロボが不用意にカメラからはずれないようにシューストッパー（抜け防止機構）が付いています。
カメラの取り付け、取り外しの際は必ず“取り付け脚”の指標にシューロックリングの指標を合わせてから行ってください。

※ 上記のほかにも多くの特徴を持ったストロボですので、TLA360の取扱説明書を併せてご覧になり、多彩なストロボ撮影をお楽しみください。

3. TLAストロボ以外のX接点を利用できる他のストロボによる撮影



1 **カメラにストロボを取り付け、露出モードレバーを“X”にセットします。**

シャッタースピードは、1/125秒になります。

● シャッタースピードはシャッターダイヤルがどの位置にあっても変わりません。

2 **絞りをセットして撮影します。**

絞りは使用するストロボの取扱説明書に従って決めてください。

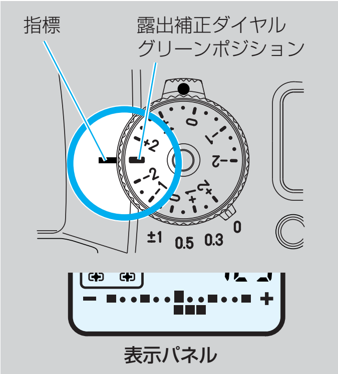
● ダイレクト接点ではない、コードを必要とするストロボは、カメラ側面のシンクロターミナルに接続してください。

コマンドダイヤルの応用操作

ドライブモードやISO感度の手動設定などの各種の設定に使っているコマンドダイヤルを露出補正ダイヤル、またはシャッターダイヤルとして使うことができます。

カメラを持ち直すことなく、ファインダーから目を離すことなく、撮影に集中したまま素早い操作を行うことができます。

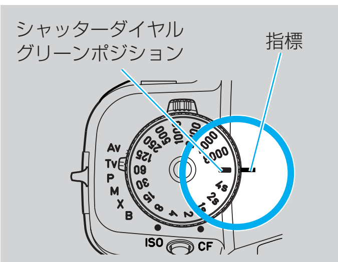
1. 露出補正ダイヤルとして使う



露出補正ダイヤルロック解除ボタンを押しながら露出補正ダイヤルを回し、グリーンポジションを指標にセットしてください。
このとき表示パネルに露出補正目盛が表示され、露出補正量は1/3EVステップになります。

- 露出補正量を1/2EVステップに変更することができます。（P76）

2. シャッターダイヤルとして使う



シャッターダイヤルのグリーンポジションを指標にセットしてください。

- シャッタースピード設定を1/2Tvステップにすることができます。（P76）
- セットの解除はシャッターダイヤルロック解除ボタンを押しながらシャッターダイヤルを回してください。

シャッターダイヤルおよび露出補正ダイヤルの両方共グリーンポジションにセットしたときは、設定されている露出モードにより、コマンドダイヤルの働きは次のようになります。
露出モード“Tv、M”　：シャッタースピードの設定
露出モード“Av、P”　：露出補正値の設定

カスタム機能について

このカメラの機能は、さまざまな撮影スタイルに応じて変更することができます。ご自身のスタイルに合わせて設定してください。

1. カスタム機能一覧表

このカメラには、次の表のように、20項目の“カスタム機能”を搭載しています。お買い上げ時は、標準的な機能（内容番号の標準設定“0”）にセットしてあります。（この取扱説明書では“0”の状態を説明しています。）
カスタム機能を変更したい場合は「カスタム機能のセットのしかた」（P78）をご覧ください。

● カスタム機能をセットするとカメラの機能や操作手順が変わります。この「カスタム機能」のページをよくお読みいただき、正しくご使用ください。

〈カスタム機能一覧表〉

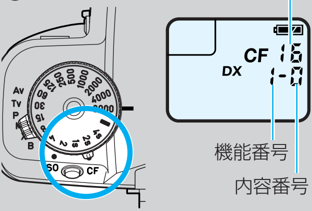
機能番号＼内容番号	標準設定（0）	変更設定（1）	変更設定（2）	変更設定（3）
①パワーホールド時間	16秒	12秒	8秒	4秒
②シャッターボタン半押しでAEロック	AEロックしない	AEロックする	——	——
③露出チェックボタンのAEロックSW化	AEロック機能無し	AEロック機能有り	——	——
④コマンドダイヤル･シャッター設定ステップ	1.0 Tv	0.5 Tv	——	——
⑤コマンドダイヤル･露出補正ステップ	0.3EV	0.5EV	——	——
⑥評価測光メータ表示	中央重点平均測光との差	スポット測光との差	表示無し	——
⑦露出のA･B･Cの順番	スタンダード→オーバー→アンダー	オーバー→スタンダード→アンダー	——	——
⑧フォーカス-A･B･C補正幅	装着レンズの開放被写界深度	装着レンズの開放被写界深度2倍	——	——
⑨フォーカス-A･B･Cフォーカスモード	MF	SAF	——	——
⑩フォーカス-A･B･C後ピン有無	後ピン有り	後ピン無し	——	——
⑪AF補助光点灯有無	点灯有り	点灯無し	——	——

機能番号 ＼ 内容番号	標準設定（0）	変更設定（1）	変更設定（2）	変更設定（3）
⑫AF合焦音･有無	合焦音有り	合焦音無し	——	——
⑬シャッターボタン半押し時･*スーパーインポーズ	有り	無し	——	——
⑭合焦時の*スーパーインポーズ	有り	無し	——	——
⑮巻き戻しオートリターン	オートリターン無し	オートリターン有り	——	——
⑯巻き戻し時･フィルム ベロ残し	ベロ残し無し	ベロ残し有り	——	——
⑰絞り込みボタン操作方法の切り替え	押している間絞り込み	押す毎に絞り込み⇔開放	——	——
⑱巻き戻しの静音化	通常	低速静音	——	——
⑲フォーカシングスクリーン測光補正	補正無し	補正有り（FX-1 対応）	——	——
⑳“M”時フォーカスボタン機能	SAF	CAF	——	——
CLE： カスタム機能の初期化	カスタム機能（①〜⑳）の内容がすべて標準設定になります。 ● この状態で露出レバーを“CF”以外にすると、それまでセットしたカスタム機能の内容がすべて標準設定“0”の状態になりますのでご注意ください。			

*フォーカスフレームが一瞬赤く照明されます。

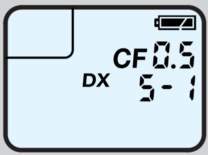
2. カスタム機能のセットのしかた

①

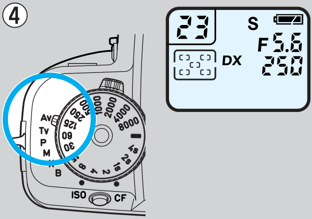


② ③

カスタム機能セット状態



④



1 **露出モードレバーを、“CF”にセットします。**

表示パネルに“機能番号と内容番号”が表示され、カスタム機能セット状態になります。

2 **コマンドダイヤルを動かして“機能番号”を選びます。**

3 **フォーカスボタンを押して内容番号を選びます。**

4 **露出モードレバーを撮影モードの位置（“CF”、“ISO”以外）に戻します。これでセット完了です。**

表示パネルが通常の表示に戻り“CF”は消えます。

● セットした機能を全て初期化するときは、前記2、で“CLE”を表示させた後、露出モードレバーを露出モードの位置（“CF”、“ISO”以外）に戻してください。

参考資料

写真の参考になる知識や、このカメラのデータを紹介します。

1. 写真の基礎知識

〈露出〉

フィルムに光をあてること。
写真の撮影を行うときは、絞り開口量とシャッターの開閉時間により、フィルムにあてる光の量を調節します。

〈シャッタースピード〉

カメラ本体に組み込まれているシャッターはフィルムにあたる光の量を、シャッターが開いている時間の長さで調節します。このシャッターを開いている時間の長さをシャッタースピードと言います。

〈絞り値〉

レンズに組み込まれている絞りは、レンズを通りフィルムにあたる光の量を、開口部を拡げたり縮めたりして調節します。この開口部の大きさを絞り値と言います。

〈フィルム感度〉(ISO値)

フィルム感度は、どの程度の光までフィルムが感応するかをISO(International Standardization Organization·国際標準化機構)で定めた数値で表しています。
ISO値が小さいほど光に対する感度が低くなります。きめ細かく高画質な写真を撮るのに適しています。
ISO値が大きいほど光に対する感度は高くなります。少ない光の量で感応しますので、暗い所での撮影や高速シャッターでの撮影ができます。しかしきめは粗く階調再現性は悪くなります。

2. 『故障かな？』とお考えになる前に

『故障かな？』と思われても、修理に出す前にもう一度次の表で症状と解決方法をご確認ください。

症　　状	原　　因	解決方法	参照頁
1. 表示パネルに表示が出ない	●電池が入っていない ●電池が完全に消耗している ●電池が逆向きに入っている	●電池を入れる ●新しい電池と交換する ●電池を正しく入れ直す	14 14 14
2. 電池マーク“▭”が点滅する	●電池が消耗している	●新しい電池と交換する	14
3. フィルムを入れて裏ぶたを閉めたら、フィルムカウンターが“00”で点滅する	●フィルムが正しく送られていません	●フィルムをもう一度入れ直す	20
4. ファインダー内表示がはっきり見えない	●視度が合っていない	●視度調整ダイヤルを回して、調整してください	17
5. シャッターが切れない	●ドライブモードが“セルフタイマー”モードになっている	●他のドライブモードに切り替える	25
6. 写真がぼけている	●ピントが合っていない ●シャッターボタンを押すときにカメラぶれを起こしている ●遅いシャッタースピードになる	●ピントを正しく合わせる ●カメラぶれを起こさないように、シャッターボタンを静かに押します ●三脚をご使用ください	28 19 19
7. 露出補正マークが点滅している	●露出補正をかけたままになっている	●露出補正ダイヤルを“0”に戻す	50

症　状	原　因	解決方法	参照頁
8. 露出のA･B･C撮影で1コマしかシャッターが切れない	●シャッターボタンから指を早く離している	●3コマ撮影し終わるまでシャッターを押し続ける	52
9. フィルムカウンターが点滅している（“00”以外）	●露出のA･B･Cまたはフォーカス-A･B･Cモードに入っている	●露出のA･B･Cレバーを“0”またはフォーカスダイヤルをフォーカス-A･B･Cモード以外にしてください	52 38
10. シャッターボタンを半押しすると、測光マークが点滅する	●カスタムファンクションが“2－1”になっている	●カスタムファンクションを“2－0”にしてください	76
11. フィルムを入れるとフィルムカウンターが“03”になる	●データバックD-10の“まとめ写し込みスイッチ”がONになっています（データバック付のとき）	●次のフィルムを入れるときに“まとめ写し込みスイッチ”をOFFにしてください	＊
12. 巻き戻しが途中で一旦止まる	●データバックD-10の“まとめ写し込みスイッチ”がONになっています（データバック付のとき）	●次のフィルムを入れるときに“まとめ写し込みスイッチ”をOFFにしてください	＊

＊11と12はCONTAXデータバックD-10の取扱説明書をご覧ください。

3. シャッタースピードと絞り値の表示について

シャッタースピードおよび絞り値は次のように表示されます。

● シャッタースピードの表示は“8000”（1/8000秒）から“32″”（32秒）まで表示されます。カメラの露出モードが“Av”、“P”のときは絞りに応じた値を1/2段階ごとに、“Tv”“M”のときはセットした値を表示します。
　“X”にセットしたときはシャッタースピードは“125”が表示されます。
　“B”にセットしたときはシャッタースピードは“buLb”と表示されます。

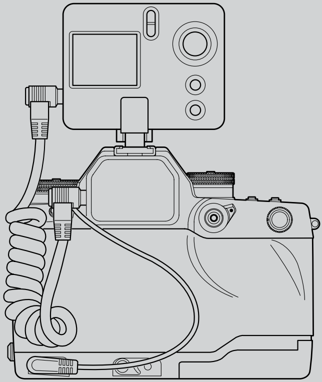
● 絞り値は、使用レンズの絞り範囲内で1/2段階ごとに値が表示されます。ただし、1/2段のさらに間で作動するときは近い表示で示されます。たとえば絞り値がf3.3のときは“3.5”と表示されます。

シャッタースピード				絞り値
AvまたはP時、およびTvまたはMのコマンドダイヤル（0.5Tv）設定時		TvまたはMのシャッターダイヤル設定時およびTvまたはMのコマンドダイヤル（1Tv）設定時		全モード
8000	10	8000	シャッターダイヤル設定時（8000〜4”）／コマンドダイヤル（1Tv）設定時（8000〜32”）	45
6000	8	4000		38
4000	6	2000		32
2800	4	1000		27
2000	3	500		22
1400	2	250		19
1000	0”7	125		16
700	1”	60		13
500	1”4	30		11
350	2”	15		9.5
250	2”8	11		8.0
180	4”	8		6.5
125	5”6	4		5.6
90	8”	2		4.5
60	11”	1”		4.0
45	16”	2”		3.5
30	22”	4”		2.8
20	32”	8”		2.4
15		16”		2.0
		32”		1.7
				1.4
				1.2

主なアクセサリー

撮影領域を広げる主なアクセサリーを紹介します。

1. 液晶ビューファインダー FE-1

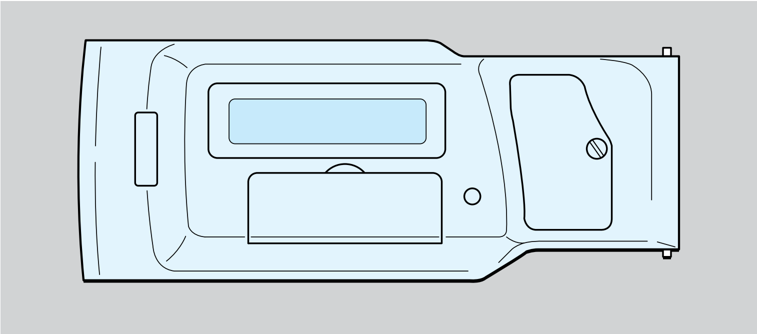


コンタックス N1 に取り付けて使用する液晶ビューファインダーです。
主な機能は次のようになります。

① カメラのファインダー内フォーカシングスクリーン上の画像と液晶表示をそのままLCD画面に表示します。
② 露出補正設定量に応じてLCD画面が変化します。
③ カメラの露出のA·B·C補正を設定すると、次の露光に対する補正量に応じてLCD画面が変化します。
● ②の露出補正併用の場合は、それを加味した画面になります。
④ カメラのAEロックを設定するとロック時の値を基準にLCD画面が変化します。
⑤ カラー／白黒切り替え可能
⑥ シャッター機能付

● LCD表示可能な精度範囲がフィルムより狭いので、フィルムと同等の表示にはなりません。LCD画面は参考としてご利用ください。

2. CONTAX データバック D-10
（マルチファンクションタイプ）



コンタックス N1の裏ぶたと交換して使用する、マルチファンクションタイプのデータバックです。フィルムの最初の2コマに撮影時の露出データを一括して写し込む「まとめ写し込み」機能と、それぞれのコマ間に日付けや露出データなどを写し込む「コマ間写し込み」機能があります。併用することもできますので、「まとめ写し込み」をセットして露出データを記録し、「コマ間写し込み」で日付けや時刻あるいはカウンター数値などをコマ間に写し込み、写真の分類や露出データの保存と整理など幅広くご活用いただくことができます。また、カメラの作動をコントロールするインターバル撮影機能も搭載しています。

● データバックD-10では、撮影画面内への写し込みはできません。

〈まとめ写し込み機能〉

各コマの撮影時の露出データをカメラが記憶しておいて、フィルムを巻き戻すときに、あらかじめ空送りしておいたフィルムの最初の２コマにまとめて写し込みます。

❖ **写し込む内容：**

① フィルムを装填した日時（年・月・日・時）
② 使用カメラ“N1”
③ 露出データ（露出補正値、シャッタースピード、絞り値、露出モード）
④ コマの番号（5コマごと）
⑤ 巻き戻しをした日時（年・月・日・時）

〈コマ間写し込み機能〉

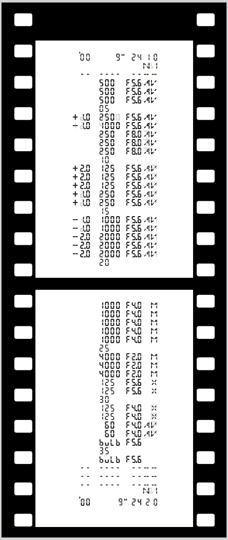
フィルムコマ間に次の８つのモードから１つ選んで写し込むことができます。

① 日付け（年・月・日）② 日付け（月・日・年）
③ 日付け（日・月・年）④ 時刻（日・時・分）
⑤ 撮影時の露出データ（露出補正値、シャッタースピード、絞り値、露出モードまたはキャラクター２文字）
⑥ カウンター数値（４桁の積算カウンター＋フィルムカウンター）＋キャラクター２文字
⑦ 任意の６桁固定数値＋キャラクター２文字
⑧ 写し込み無し

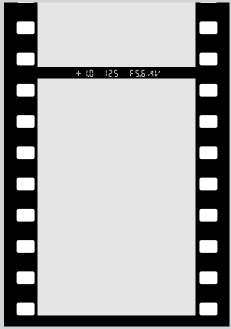
〈インターバル撮影〉

設定した時刻より一定時間ごとに、設定した撮影回数分自動的に撮影する機能を搭載しています。時間の経過による変化を観察する撮影や無人撮影に便利です。

「まとめ写し込みの例」

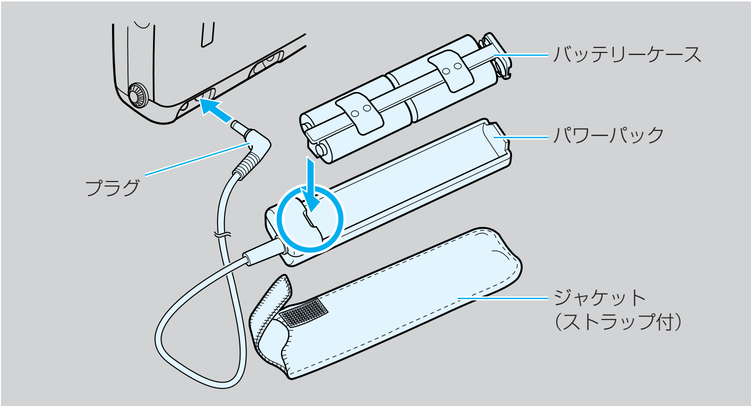


「コマ間写し込みの例」



（説明のために図示したもので実際の表示とは異なります。）

3. CONTAX パワーパック P-8



パワーパック P-8は、1.5V単3形乾電池4本、または1.2V単3形ニッカド電池4本を使用する外部電源です。寒冷地など、気温の低い場所で、寒さの影響による電池の低下を防ぐために、カメラの外部で電源を保温しながら撮影するために利用します。

〈取り付けかた〉

1. パワーパックP-8に電池を装填します。

① パワーパック P-8に付属しているバッテリーケースに、表示に従って単3形電池4本を入れP-8本体に取り付けます。

② P-8本体をジャケット（ケース）に入れます。

2. パワーパックP-8のコード先端のプラグを、外部電源ソケットに差し込みます。

- 撮影の際に、パワーパックを防寒具の内側などに入れると、より保温の効果を高めることができます。
- 電池を交換するときは、種類の違うものや古いものを混ぜたりしないで、4本とも同じ種類の新品電池を同時に交換してください。
- パワーパックを長時間使用しないときは、電池の漏液を防ぐため、バッテリーケースから電池を取りはずしておいてください。
- 接続コードの取りはずしは、コードを引っぱらずにプラグ部を持って行ってください。

■ P-8の仕様

構成： パワーパック本体、バッテリーケース、ジャケット（ストラップ付き）、コードの長さ：1.5m

電源： 1.5V単3形電池4本、または1.2V単3形ニッケル水素電池4本（単3形マンガン乾電池は電池容量が少ないためご使用になれません。）

■ 使用電池と撮影本数

●36枚撮り、常温（＋20℃）、新品電池使用、当社撮影基準による

使用電池	撮影本数	
	①	②
1.5V単3形 アルカリ乾電池　4本	約5本	約10本
1.5V単3形 リチウム電池　4本	約15本	約50本
1.2V単3形 ニッケル水素電池　4本	約2（＊15）本	約5（＊50）本

＊ニッケル水素電池はフル充電して使用したとき。

❖ 撮影本数は次の条件での数値です。

① ドライブモード“S”、バリオ·ゾナーT＊24－85mmレンズを装着し、1コマ毎に無限遠から至近まで1往復させ、1回レリーズ後、16秒間放置。同じ動作を繰り返し実施。

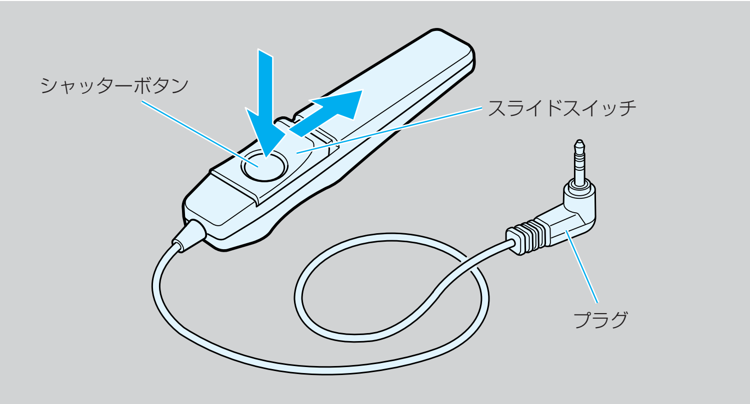
② ドライブモード“S”、バリオ·ゾナーT＊24－85mmレンズを装着し、1コマ毎に無限遠から至近まで1往復させ、1回レリーズ後、4秒間放置。同じ動作を繰り返し実施。

● 電池によってはその性質上、装着時一時的に電圧が低下し“ ”が点灯、または点滅する場合があります。この際は一度メインスイッチをOFFにし、再度ONにしてください。この操作を行って“ ”が点灯したらそのままお使いいただけます。

＊ 単3形ニッケル水素電池（1.2V）を使用したとき、電池の性質上、比較的初期より“ ”マークが点灯、または点滅をはじめます。しかし、そのまま使用できます。その際の撮影本数の目安は、上記条件の場合（　）内の撮影本数となります。

※仕様·外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

4. CONTAX ケーブルスイッチ LAタイプ



ケーブルスイッチ LAタイプは、三脚などを利用しての接写や望遠撮影、あるいはカメラから離れてシャッターを切るときに使用します。特に接写や望遠撮影ではシャッター時のカメラぶれを防ぐことができます。
撮影はケーブルスイッチのシャッターボタン（半押し機能付）で行いますが、長時間露光や連続撮影に便利なスライドスイッチを設けてあります。
コードの長さはLA-50が50cm、LA-500が5mです。

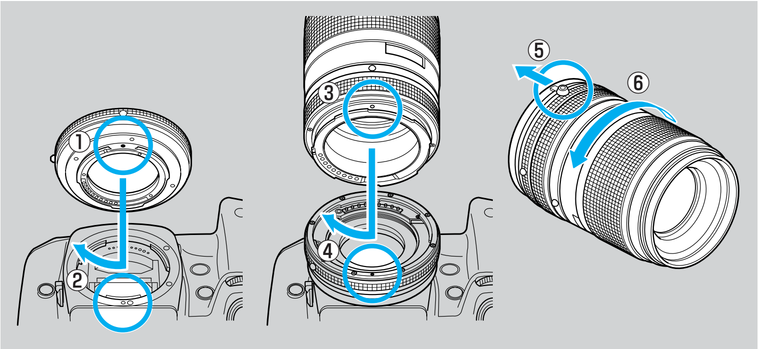
〈取り付け〉

ケーブルスイッチのプラグをカメラのケーブルスイッチソケットに差し込みます。

〈撮　影〉

ケーブルスイッチのシャッターボタンを押すと、カメラのシャッターボタンと同じ働きをします。半押しで測距･測光･フォーカスロック等、全押しでシャッターが切れて撮影が行われます。
長時間露光または連続撮影を行うときは、スライドスイッチを利用すると便利です。スイッチを手前に引くと（赤い指標が見えます）、その間シャッターが作動を続け、元に戻すとシャッターが閉じて撮影が終わります。

5. CONTAX マウントアダプター NAM-1



CONTAX N1にCONTAX 645システムのレンズを使用できるアダプターです。N1のフォーカス-A･B･Cモードを除いて使用できます。

● 当社TLA360ストロボ使用時、次のレンズはストロボにセットされる焦点距離が変わりますが、配光特性上の問題はありません。

使用レンズ	ストロボセット
① ディスタゴンT＊45mm F2.8	50mm
② プラナーT＊80mm F2	85mm

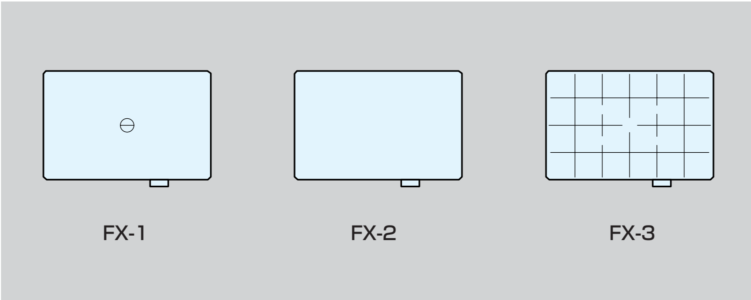
〈マウントアダプターとレンズの取り付けかた〉

1. マウントアダプターのボディ取り付け指標①をカメラのレンズ指標②に合わせてはめ込み、矢印方向に回して取り付けます。
2. レンズの指標（赤色）③をアダプターのレンズ取り付け指標④に合わせ、矢印方向に回して取り付けます。

〈取り外しかた〉

1. レンズを取り外すときは、マウントアダプターの取り外しボタンを矢印方向⑤にスライドさせたまま、反時計方向⑥に回して取り外します。
2. マウントアダプターを取り外すときは、カメラのレンズの取り外しボタンを押しながらマウントアダプターを反時計方向に回して取り外します。

6. フォーカシングスクリーン FX タイプ



N1 用のフォーカシングスクリーンは、FX-1 ～３の３種類が用意されており、撮影目的や用途に応じて交換することができます。交換方法は次ページをご覧ください。（フォーカスフレームはフォーカシングスクリーン上には刻印されておりません。）

● フォーカシングスクリーンは高精度に仕上げられておりますので、絶対に手で触れないでください。

❖ FX-1（水平スプリット式）

中央のスプリット部、周辺のマット部の２つの部分でピントを合わせることができます。

❖ FX-2（全面マット式）

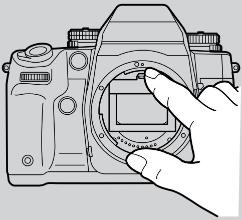
標準装備品。全面をマット状にしたスクリーンで一般撮影に適しています。

❖ FX-3（方眼マット式）

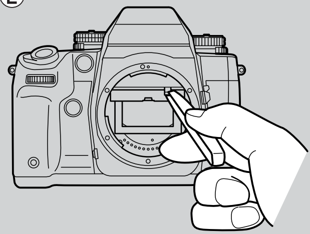
全面マット式に方眼を入れたスクリーンです。複写など厳密に構図を決定するときに適しています。

● FX-1 を使用するときは、測光補正が必要です。カスタム機能を”19-1”にセットしてください。（P76）

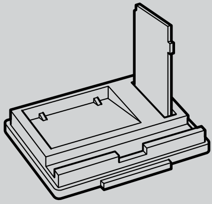
①



②



③



〈フォーカシングスクリーンの交換のしかた〉

※各スクリーンには、交換用のピンセットが付属しています。必ず付属のピンセットをご使用ください。

スクリーンの交換は、次のようにして交換してください。

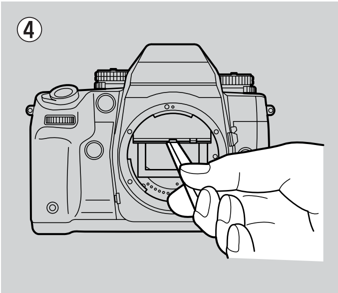
1. スクリーンの取りはずし

1 **レンズを取りはずしてからカメラのスクリーン交換つめを指の先などで軽く押します。**

スクリーンが枠ごと下がりますから、静かにおろしてください。

2 **スクリーンの突起部をスクリーンに付属のピンセットではさんで取り出します。**

3 **取り出したスクリーンは、ケースの溝に立てておくと汚れや傷を付ける心配がありません。**



2. スクリーンの取り付け

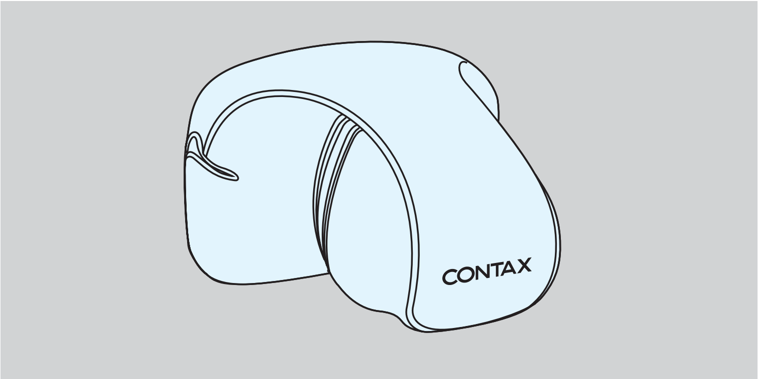
4 取り付けるスクリーンの突起部をピンセットではさみ、下がっている枠内に入れます。次に枠の突起部（交換つめ）をピンセットでカチッと止まる所まで静かに押し上げてください。

最後に指で軽く押し、確実に入っているか確認してください。

これで取り付けは完了です。

- フォーカシングスクリーンの交換は必ず専用のピンセットを使用し、ミラー面、およびスクリーンに傷や指紋を付けないように注意してください。
- スクリーンにごみが付いたときは、ブロワーで吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽く払ってください。
- 取り付けかたが不完全ですと撮影中にスクリーンがはずれて破損したり、レンズの着脱ができなくなることがあります。このときは、専門的な処置を必要としますので最寄りのサービスステーションにお持ちください。
- 使わないスクリーンは、スクリーンケース内の図解に従って収納しておいてください。

7. フレックスケース C-8



ケース先端を伸縮させることにより、データバック D-10を装着したN1に、以下のカールツァイスT＊レンズを装着したまま収納することができます。

ケースの伸縮状態	収納可能レンズ （フィルター1枚、レンズキャップ付）	
縮めた状態	P50/1.4（Nマウント） VS24-85（Nマウント）	P80/2（645マウント）
伸ばした状態	MP100（Nマウント） VS70-300（Nマウント）	D45/2.8（645マウント） S140/2.8（645マウント） AMP120/4（645マウント）

＊645マウントレンズはマウントアダプターNAM-1併用

主な仕様

型　式	：35mmフォーカルプレン式AF/AE一眼レフカメラ
画面サイズ	：24×36mm
レンズマウント	：コンタックスNマウント
シャッター形式	：縦走行フォーカルプレンシャッター
シャッタースピード	：Av、P　：32秒～1/8000秒 Tv、M　：シャッターダイヤル設定････4秒～1/8000秒 Tv、M　：コマンドダイヤル設定････32秒～1/8000秒 B　　　：バルブ X　　　：1/125秒
シンクロ接点	：X接点（1/250秒以下で同調） ダイレクト接点、およびシンクロターミナル付き
セルフタイマー	：電子式、作動時間2秒、10秒
シャッターレリーズ	：電子レリーズ方式、専用ケーブルスイッチソケット付
露出制御	：①絞り優先オート　②シャッター優先オート　③プログラムオート ④マニュアル露出　⑤TTLオートストロボ
測光方式	：TTL評価測光／中央重点平均測光／スポット測光　切り替え式
測光連動範囲 (ISO100, F1.4)	：評価測光　　　　：EV0～21 中央重点平均測光：EV0～21 スポット測光　　：EV3～21
フィルム感度連動範囲	：DXコードによる自動設定時････ISO25～5000 マニュアル設定時････ISO6～6400
AEロック	：像面光量記憶方式
露出補正	：＋2EV～－2EV（1/3または1/2ステップで設定可能）
露出のA･B･C機構	：露出のA･B･Cレバーの設定による露出補正 補正幅±0.3EV／±0.5EV／±1EV
ストロボ調光連動方式	：TTLダイレクト調光方式
ストロボ同調	：専用ストロボの充電完了によりシャッタースピード自動切り替え
ストロボオートセット機能	：ストロボオートセット機能付き当社ストロボと組み合わせることにより可能
後幕シンクロ	：後幕シンクロ機能のある当社ストロボと組み合わせることにより可能
測距方式	：5点TTL位相差検出方式
フォーカス-A･B･C機構	：フォーカスダイヤル設定による自動フォーカス補正機能
ファインダー	：ペンタプリズム使用のアイレベル型（ロングアイポイント式） ・視野率････95％　　・倍率････0.73倍 （50mm標準レンズ無限遠、視度－1Dのとき） アイピースシャッター付
視度補正	：視度補正機構内蔵、補正範囲－3D～＋1D

フォーカシングスクリーン：全面マット式を標準装備
スクリーン交換可能（FXタイプ）

ファインダー内表示：フォーカスフレーム、露出のA·B·Cマーク、フォーカス-A·B·Cマーク、フィルムカウンター／セルフタイマー時間／露出のA·B·C、フォーカス-A·B·C撮影順序／多重露出枚数／フィルム装着状況、測光マーク、ストロボマーク、フォーカス表示、絞り値、シャッタースピード、露出メーター／露出補正値／測光差、露出補正マーク、マニュアル露出マーク

表示パネル：フィルムカウンター／セルフタイマー時間／露出のA·B·C、フォーカス-A·B·C撮影順序／多重露出枚数／バルブ時間／フィルム装着状況、フォーカスフレーム選択表示、露出補正値、シャッタースピード／フィルム感度／カスタムファンクション、DX/ISOマーク、絞り値、CFマーク、電池マーク、セルフタイマー（2秒10秒）マーク、連続撮影マーク、1コマ撮影マーク、多重露出撮影マーク

フィルム装填：オートローディング式
フィルムカウンター“01”までの空送り機構付き

フィルム巻き上げ：内蔵モーターによる自動巻き上げ

フィルム巻き戻し：内蔵モーターによる自動巻き戻し、巻き戻し後は自動停止、途中巻き戻し可能

ドライブモード：1コマ、連続、セルフタイマー2秒、10秒

巻き上げ速度：連続撮影（“C”モード）最高約3.5コマ/秒
（新品電池使用、常温、当社撮影基準による）

フィルムカウンター：表示パネル、ファインダー内とも自動復元順算式

アクセサリーシュー：ダイレクトX接点（TLAストロボ連動接点付）

カスタム機能：P76カスタム機能一覧表参照

裏ぶた：裏ぶた開放ノブによる開閉式、着脱可能、フィルム確認窓付

電　源：6Vリチウム電池（2CR5）1個使用

バッテリーチェック：自動チェック式、表示パネルに表示

フィルム撮影本数：常温（＋20℃）で約20本、低温（－10℃）で約5本
（36枚撮りフィルム、新品電池使用、ドライブモード“S”、バリオ·ゾナーT＊24-85mmを装着し、1コマ毎に無限遠から至近まで1往復させ、1回レリーズ後16秒間放置。同じ動作を繰り返し実施）
：常温（＋20℃）で約50本、低温（－10℃）で約10本
（36枚撮りフィルム、新品電池使用、ドライブモード“S”、バリオ·ゾナーT＊24-85mmを装着し、1コマ毎に無限遠から至近まで1往復させ、1回レリーズ後4秒間放置。同じ動作を繰り返し実施）

その他　：露出チェックボタン、絞り込みボタン、AF補助光付
寸法、質量　：152（幅）×116.5（高さ）×69（奥行き）mm
795g（電池別）

※仕様･外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。
本製品の機能をフルに活用していただくためにも、交換レンズ、およびアクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。コンタックス用として市販されている他社商品を使用して生じた事故や故障については、当社では保証いたしかねます。